

登場人物

看護学生

イトウ・ユウコ（ミキの異父姉）
サクライ・ミキ（ユウコの異父妹）
タケムラ・チサト（ユウコの従妹）
ニシ・ナツキ（過疎地出身）
ハセガワ・トモヨ（総合病院の娘）
オカモト・サナエ（トモヨの幼馴染）
ウサミ・ヤヨイ（町医者 of 娘）
ヤナセ・アヤカ（小児看護志望）
フクイ・ヒデオ（小児看護志望）
カワシマ・ヒトミ（人体マニア）
コマツザキ・アイ（進路変更志望）
ミウラ・キヨウコ（元主婦）
ヨシダ・ミヤコ（元介護士）
モリ・ナオヤ（カズヒコ・トモツグの幼馴染）
ナガサワ・シオリ（元准看護師）

* *
ノグチ・フサヨ（看護学校 教務主任）
ワタナベ・チエ（看護学校 教諭）
カガ・マユミ（看護師・臨床指導者）
スズハラ・タカシ（食堂業者）
ツヅキ・コウイチ（看護学校 事務員）
ホンゴウ・カズヒコ（海上保安学校生）
マツダ・トモツグ（海上保安学校生）

海が見える小さな港町。

市街を少し外れた川沿いに大学病院があり、看護専門
学校が併設されている。

その学生寮の一角にある小さな庭。

食堂、^{だんらん}団欒室などがある建物の裏に位置し、渡り廊下
を挟んで学生が暮らす寮棟がある。

ベンチやガーデンチェアはあるが、わずかな鉢植えが
いくつか並ぶだけで庭と呼ぶには少し殺風景な様子。

おだやかな屋下がり。

ユウコがベンチに寝そべっていた。

チサトはそれを傍で見ている。

チサト ユウちゃん。

ユウコ ・・・。

チサト ユウちゃん。

チサト、ユウコの鼻をつまむ。

息が苦しくなり、ユウコは思わず身をよじって息を大
きく吸い込んだ。

ユウコ ぷはっ！

チサト 何してるの？

ユウコ 死んだふり。

チサト 何で？

ユウコ 死んだ人の気持ちになってみようと思って。実習でも
やったやん。病人の気持ちを体験しようって。何時間も

じっと寝たり、オムツ一日中付けて過ごしたり。

チサト で、わかったん？死んだ人の気持ちは。
ユウコ わからへん。

チサト そもそも気持ちがあるってことは生きてるってことな
んとちゃうの。

ユウコ じゃあ死んだら気持ちはなくなるの？

チサト それはちよつと寂しいな。

ユウコ 暗くて気持ちよかった。

チサト 寝てただけやん。

ユウコ 時間のない国は、病気もないんかなあ。

チサト ユウちゃん。

ユウコ ん？

チサト 戴帽式、やっぱり来られそうにないって。

ユウコ そっか。叔母さんも？

チサト 検査結果が出るまでは心配やから傍にいるって。

ユウコ 相変わらずラブラブやね。

チサト っていうか職業病？

ユウコ 逆やろ。

チサト え？

ユウコ 看護師って身内が病気の時でも世話できへんもんなん
と違うの？

チサト そんなことないよ。

ユウコ うちだけやったんかな。

ユウコ、腕時計を見た。

ユウコ でも残念やな。叔父さんも叔母さんも、チサトの戴帽
式、めっちゃ楽しみにしてたのに。

チサト しゃあないわ。その分写真いっぱい撮って、また二人
で見せに行こ。

ユウコ うん。

チサト ユウちゃんの方は？

ユウコ え？

チサト 誰も来へんの？

ユウコ (頷く) 休み取れへんかったみたい。担当の患者さん、
予断を許さへん状態やねんて。

チサト そっか。残念やな。

ユウコ 別に。来て欲しいとも思わんし。どうせ他人やねんか
ら。

チサト

また。

ユウコ 代わりにこれ送ってきたわ。

ユウコ、チサトに時計を見せる。

チサト 腕時計？

ユウコ お父さんが使ってたやつ。お祝いになって。

チサト へえー、カッコええやん。

ユウコ お父さんは時間のない国に行ったから、って。

チサト 時間のない国か。

ユウコ うちがこれがあればいい。

チサト そっか。

ユウコ あのな。

チサト ん？

ユウコ おかあさん、な。

チサト うん。

ユウコ あ、あの人と違うで。ウチを産んだ方のお母さん。

チサト え？

ユウコ 来るかも知れへんって。戴帽式。

チサト ええっ？

ユウコ いや、たぶん絶対来ると思う。
チサト 何で？
ユウコ わかってん。
チサト わかったって？
ユウコ 居場所。
チサト ウソお。なんでわかったん？
ユウコ 見つけてん。
チサト どこで？
ユウコ 学生名簿の保護者欄。
チサト え？
ユウコ 見つけたんは入学してすぐやったんやけどな。
チサト 学生名簿って、この学校の？
ユウコ うん。戸籍調べた時、死別じゃなかった、って言うたやんか。
チサト うん。
ユウコ その時見た名前、偶然やけど見つけてん。
チサト 学生名簿で？
ユウコ ミキおるやる。サクライ・ミキ。
チサト うん。
ユウコ ミキのお母さん。
チサト ミキの？
ユウコ びっくりしたわ。
チサト 偶然ちゃうの？
ユウコ 私もそう思ってたんだけど、この前グループ分けした時
一緒にチームになつてな、思い出したから一応聞いてみてん。
そしたら合ってるねん。離婚した年も、看護師してた病院も。
チサト ミキのお母さんってことは再婚してるんやる。何で苗
字が変わってへんの？
ユウコ 結婚してへんねんで。内縁やって言うてた。
チサト と言うことは、ミキはユウちゃんの・・

ユウコ 妹、ってことになるな。何ていうの、異父姉妹？
チサト 会うたん？
ユウコ (首を横に振る)
チサト 連絡は？
ユウコ してへん。ミキにも言わんといて、って口止めしてる。
チサト 何で？
ユウコ なんか、どうしたらいいんか分からへんし。
チサト まあなあ。
ユウコ 来ると思うやる。
チサト うん。普通はな。
ユウコ どうしよう。
チサト ミキは何て言うてんの？
ユウコ 何にも。でも時々こつちをじっと見てる。・・やっぱり
引き会わされるんかな。どうしたらいいと思う？
チサト 会ってみたら？
ユウコ え？
チサト そのうち嫌でも会うことになるんとちゃうの？それや
ったら、この際思い切って会ってみたら？
ユウコ ・・・。
チサト まあ、ユウちゃんがそうしたければ、の話やけど。
ユウコ、ベンチの陰に身を隠し、一瞬顔を出してまた
隠れた。
チサト 何してるの？
ユウコ こんな感じ。
チサト え？
ユウコ (もう一度やる) まだこんな感じ。できれば。

溶暗。チサト退場。

ユウコを浮かびあがらせる明かり。

ユウコ 五月。ナイチンゲールの誕生日に私達の戴帽式は行われる。桜はとつくに散ってしまったけれど、私は若葉の方が好きだ。この小さな港町は、海からは潮の匂いが、山からは草の匂いがあるので気に入っている。うちからは離れて、チサトや叔父さん、叔母さんのいる家が近いつてところも。あの人が送ってくれた時計は、コチコチと正確に時を刻んでいた。私にも、お父さんにもお母さんにも平等に。同級生が妹。普通だとありえない。でも実際にありえてしまった。だって看護学校にはいろんな年の人がくるから。短大を卒業して、どこにも就職できず、手に職付けようと入った学校で、まさかこんな形で自分の過去に出会うなんて思いもしなかった。私を置いて家を出たお母さん。そのお母さんと新しい家族が同級生。なんだかモヤモヤして、変な気持ちだ。

暗転。

#2

白衣に身を包んだ看護学生達がキャンドルを手に現れた。
幻聴なのか、彼らの日々のつぶやきなのか、口々に声が聴こえる。

ヒトミ アナムネ。
アヤカ アセスメント。
ミヤコ シーツ交換。

ヒデオ 清拭。

アイ 陰洗。

トモヨ 体位変換。

ナツキ 寝衣交換。

ヤヨイ 移乗。

シオリ 搬送。

ミキ ターミナルケア。

ナオヤ コンチネンスケア。

キョウコ 吸引。

サナエ 採血。

チサト コミュニケーション。

ヒトミ 正常な呼吸を助けます。

アヤカ 適切な飲食を助けます。

ミヤコ 老廃物の排泄を助けます。

ヒデオ 適切な姿勢になるよう介助します。

アイ 睡眠と休息に気を配ります。

トモヨ 衣服の着脱を介助します。

ナツキ 体温の維持に努めます。

ヤヨイ 身体の清潔を保ちます

シオリ 危険回避に努め、患者さんを守ります。

ミキ 気持ちの表現や欲求を受け止めます。

ナオヤ 日常動作の自立を促します。

キョウコ 健康へ導くよう学習します。

サナエ 患者さんを満足させます。

一同 患者さんを満足させます。

ユウコ、遅れて入ってくる。
ミキとぶつかりそうになり、しばし対峙。
しかし、ユウコ、目をそらして離れた。

幸のために身を捧げん。

進行役のワタナベがアナウンスを入れる。
アナウンスの間、学生達はノグチとカガの前でひざま
ずき、次々とナースキャップを授かり、キャンドルに
明かりを灯して整列してゆく。

ワタナベ 皆さんは今、新たな決意を抱き、看護への第一歩を
踏み出します。命の尊さを思い、思いやりの心で一人ひとり
に尽くして下さい。皆さんを支えて下さるご家族をはじめ、
多くの方々への感謝の気持ちを忘れないで下さい。今日、こ
の喜びを胸に刻み、どのような困難があろうとも仲間たちと
励ましあって、看護の道を歩み続けられることを願っていま
す。

全員ナースキャップを授かり、位置に着いた。

ワタナベ 誓いの言葉。

一同、『ナイチンゲール誓詞』を唱和する。

一同 われはここに集いたる人々の前に 厳かに神に誓わん。
わが生涯を清く過ごし わが任務を 忠実に尽くさんことを。
われは すべて毒あるもの 害あるものを絶ち
悪しき薬を用いることなく また
知りつつもこれをすすめざるなり。
われは わが力の限り わが任務の標準を
高くせんことを努むべし。
わが任務にあたりて 取り扱える人々の 私事のすべて
わが知り得たる 一家の内事のすべて
われは人に洩らさざるべし。
われは 心から医師を助け わが手に託されたる人々の

唱和が終わわり、退出を始める学生達。

そこへツツキが現れ、ミキに伝言を伝える。
ツツキと共に列から離れ、去ってゆくミキ。
ユウコはその様子を見ていた。

#3

後日。寮の庭。

二組のグループがそれぞれ、テーブルを囲んでいる。
トモヨ、サナエ、ナオヤは話しており、同じテーブル
についているがヒトミは本を読んでいる。
少し離れた別のテーブルでは、アヤカとミヤコが書き
物をしていた。

サナエ えー、聴診器もらったん？

トモヨ うん。実習始まるからって。

ナオヤ メーカーは？

トモヨ リットマン。

サナエ いいなー。「セレクト」？「ライトウエイトⅡ」？

トモヨ 「カーディオロジ Ⅲ」っていうんやけど。

サナエ カーディオロジ？

ナオヤ それって普通は研修医が使うタイプやる。

サナエ そうなん？

ナオヤ 確か2万以上はしたはずやで。

サナエ 高っ。

ナオヤ 循環器系の医者とかが使うやつやんな。

サナエ そこまで高いのじゃなくても良かったんちゃうの？

トモヨ お兄ちゃんがもう使わへんからってしてくれてん。お下が

りやって。

サナエ さすが。総合病院の娘は違うな。

ナオヤ 僕もお下がりが欲しいなあ。

サナエ 私も。

トモヨ やーよ。

ナオヤ レポート代筆したるで。

トモヨ それはちよっとおいしいなあ。

サナエ 私もやるよ。

トモヨ いい、遠慮しとく。

サナエ 何でよ。

トモヨ サナエに代筆されたら点数下がるやんか。

サナエ ー。ほんなら夜の点呼の代返は？

トモヨ 考えとくわ。

ヤヨイ、ノート類を持って現れる。

ヤヨイ (アヤカとミヤコに) お疲れさまー。

アヤカ・ミヤコ お疲れー。

トモヨの姿を見つけると、持っているものをテーブルの上に置き、もう一方のテーブルへ行って、トモヨの肩を軽く叩く。

ヤヨイ この前はありがとうね。

トモヨ あ、どうやった？

ヤヨイ 楽しかったよ。

トモヨ うまく行きそう？

ヤヨイ ー、なかなか難しそうやけどねえ。

トモヨ そうかあ。

ヤヨイ でもホンマに楽しかったんよ。また話あったら頼むね。

ヤヨイ、自分の席に戻る。

サナエ 何？

トモヨ ちよつとな。

ナオヤ (トモヨに) あ、そうや、今度あれ貸して欲しいねんけど。

トモヨ 何？

ナオヤ 去年の成人看護学概論のテスト。

トモヨ ああ。

サナエ 去年のテスト？

トモヨ うちの部屋の先輩がとってあったつて。

ナオヤ あの先生毎年同じ問題出すらしいよ。

サナエ ホンマに？

トモヨ コピーする？

サナエ する、する。

トモヨ サナエに言うてへんやろ。

サナエ ー、うちも欲しいねんけど。

ナオヤ 貸してくれたら何かオゴるよ。

サナエ うちも便乗する。

トモヨ じゃあ、シャトレーゼの生ロール。

ナオヤ え？

トモヨ 駅前に売ってるよ。生チョコのロールケーキ。

ナオヤ わかった。

トモヨ マジで？やった、絶対な。

トモヨ、寮棟に向かって歩き出す。

ナオヤ どこ行くの？
トモヨ 忘れんうちに取ってくるわ。
サナエ あ、聴診器見せてもらっていい？
トモヨ うん。

サナエとトモヨ、寮棟に入っていた。
ヒトミ、読んでいた本から顔を上げる。

ヒトミ ナオヤくん、吹き出物ができてるよ。
ナオヤ え？

ヒトミ 胸鎖乳突筋部に。
ナオヤ 何？

ヒトミ ここ。(と、指す) あ、頤下三角にも。ケナログか
テラ・コートリル軟膏塗つといた方がいいよ。
ナオヤ ああ。・・・ありがとう。

ヒトミ 膿持ってそうだから、出た時は見せてね。
ナオヤ え？

ヒトミ 患部見るの好きやねん、私。

ナオヤ ・・・。

ミヤコ えっ！うちの病院って耳式体温計ないの？

ミヤコの言葉にナオヤとヒトミ、思わず振り向く。

アヤカ 何？

ミヤコ 見て、去年の記録。

ヤヨイ ああ、腋下えきかつてあるね。

ミヤコ わー、面倒めんどうくさい。

アヤカ でも普通耳式は新生児の所くらいしか置いてないんと
ちやうの？

ミヤコ そんなことないよ。お年寄りでも自分で測れない人多

かったから、めっちゃ便利やったんやけどなあ。耳でピツ
て。

アヤカ 使ってたん？

ミヤコ 介護してたときな。

アヤカ へー。

ミヤコ 子供っておとなしく測らせてくれるやるか。

アヤカ どうやろうなあ。

ヤヨイ 大丈夫やって。

ミヤコ 何で？

ヤヨイ 病気と闘ってる子は普通よりずっと大人やから。

ヒデオ、現れる。

ヒデオ (ミヤコ達に) おつかれー。

ミヤコ・ヤヨイ・アヤカ おつかれー。

アヤカ どうやった、追試？

ヒデオ めっちゃ緊張した。

ヤヨイ ヒデオ君、何の追試？

ヒデオ 採血。

ヤヨイ ああ、難しかったもんね。

アヤカ っていうか、不器用やねん。静注も筋注も追試やった
やる？

ヒデオ 俺、実は今だに針怖いねんなあ。

ミヤコ えー。

アヤカ 去年バイタルの実技も落としたやる。

ヒデオ お前、それ言うなよ。

アヤカ 悪いけどめっちゃ笑ったわ。

ミヤコ バイタルの実技落とす人っておるん？

ヒデオ 俺、わーってなったらわからんようになるねん。

ミヤコ アカンちゃん、それ。

ヤヨイ 何で落ちたん？

アヤカ 血圧測る時に聴診器耳に着け忘れててん。

ミヤコ マジで？

ヒデオ マンシエツト巻いて、ちよつとカッコつけてシユコシユコシユコ・・って空気入れてんけど、なんか、音全然聞こえへんねん。オカシイなあーって思ったら（耳に）入れてへんかってん。

アヤカ 電子体温計やのに振って熱下げようとするし。

ヒデオ ついクセで。

アヤカ 水銀ちやうちゆうねん。

ミヤコ ヒデオくん、マジでヤバイで。

ヒデオ 大丈夫やって。俺、大器晩成型やねんから。

キョウコとチサト、建物から現れる。

チサト （ミヤコに）だんらん 団欒室空いたよ。

ミヤコ ホンマ？

キョウコ 使っていいって。

ミヤコ どうする？

アヤカ 行こ。

ミヤコ 移動しよつか。

ミヤコたち、立ち上がって行き始める。

ヤヨイ アイがまだ来てへんよ。

アヤカ また？

ヒデオ 最近多いな。

ヤヨイ 遅れるとか聞いてない？

チサト さあ・・

キョウコ やる気ないんかな。

アヤカ え？

キョウコの携帯鳴る。

キョウコ ごめん、先行ってて。

ミヤコ わかった。

ミヤコたち去った。

キョウコ もしもし？ああ、お母さん・・え？そうなん？マモルが？熱ってどれぐらい？・・うん、それで病院は？今から・・わかった。私？今日はちよつと今から実習の打ち合わせやら・・うん、ゴメンな、急いで帰るようにするわ。うん・・うん・・終わったらすぐ連絡する。じゃあね。・・はい。

電話切って建物に戻ってゆく。

入れ替わりにナツキが現れる。

ナツキ （トモヨ達に）ごめん、遅くなって。・・あれ？
こんだけ？

トモヨとサナエ、寮棟から現れる。

トモヨ ゴメン、ゴメン、ちよつと物取りに戻ってたから。

ナツキ これで全員？ユウコは？

サナエ あ、ユウコはノグチ先生に用があるから遅れるって。

ナツキ そうなんや。さっきミキから連絡があつてな、お母さんの方、落ち着いたし、明日から出て来れるって。

ナオヤ へー。

サナエ 良かったなあ。脳梗塞のうこうそくやったんやろ？
ナツキ うん。まだ麻痺まひが続くけどひとまず安定したからって。

サナエ 介助かいじょとか、ええんかな。

トモヨ ええんとちゃう？その辺は病院がちゃんとやってくれるって。

ナツキ ええことはないやろうけどミキも実習があるから。

ナオヤ まあな、単位落としても余計にお金かかるだけやし。

ナツキ とりあえず、始めよか。

ナツキ、持っていたプリントを配る。

ナツキ ノグチ先生から説明があつた通り、私らの最初の実習は外科になりました。

サナエ 外科ってキツイんちゃうの？

ナオヤ って聞くなあ。

トモヨ 急患が多いからピリピリしてるらしいで。

ナツキ 一応みんな手術のある患者さんを担当させてもらえるみたいやねんて。だから術前の行動アセスメントと身体アセスメント、できればムンテラも一緒に聞かせてもらおうようにって。

サナエ ムンテラって何？

ナオヤ ちょっとやらしい感じ。

ナツキ もう、真面目に聞いている？

ナオヤ ゴメン、ゴメン。

サナエ マジで何やったっけ？

ナツキ ドクターが患者さんとか家族に説明することやん。

サナエ ムンテラ・・(と、メモする)

トモヨ でも同席は難しいんとちゃう？

ナツキ 何だよ。

トモヨ やっぱり個人的な込み入ったことやし。私らって赤の他人の、しかも学生やん。実際は聞かれるのを嫌がって拒否する患者さんって多いらしいで。

ナツキ 難しいかも知れへんけど、ドクターが直接病状の説明してるのを聞けるんやから、出来るだけ掛け合ってみて方がええんとちゃうの。

トモヨ 普通に考えて嫌やろ。知らん子が自分とか親の病状を一緒に聞いているの。

ナツキ そんなこと言うてたら学生は育たへんやん。

トモヨ 患者さんは自分の病気のことといっぱい、いっぱい、やねんで。学生のことなんか考えへんって。

ナツキ そんなことないよ。うちの田舎の人らは新しい看護師さんでも技術が上手くなつて欲しいからって、注射とか自分で練習してくれって言うてはったよ。

トモヨ そら医者とか看護師がおらん僻地へきちやからやん。

ナツキ 悪かつたね、僻地へきちで。

ヒトミ あの。

ナツキ 何？

ヒトミ 手術って絶対見学できますよね？

ナツキ え？・・ああ。その予定やけど。

ヒトミ よかつた。

ナオヤ ・・で、手術の後は何？

ナツキ そうそう・・術後は考えられる合併症の予測と回復期の観察をまとめること。退院できそうな患者さんには生活指導の提案と説明。パンフレットは実習期間中に退院できなくてもできなくても受け持ち担当の患者さんには作成して渡すこと。

ノグチとユウコが現れる。

ノグチ ちょっと打ち合わせ中悪いんやけど、いいかな。

ナツキ はい。

ノグチ さつきイトウさんから違うグループに変えて欲しい、
っていう希望が出てね。

ナツキ え？

サナエ なんで？

ノグチ 私も理由を聞いてみたんやけど、言うてくれへんのよ。

一同、ユウコを見た。

ノグチ 理由によつてはと思つたんやけど、理由が分からへん
のに認めるわけにもいかへんし。

ユウコ 無理やつたらいいんです。できればと思つて言つてみ
ただけですから。

トモヨ 言つてみただけつて。

ノグチ チーム分けた時言うたと思うけど、チームワークも
採点の基準に入つてるんよ。グループワークの実習始まるの
に、このままでは問題でしょ。協力しあえるように皆でイト
ウさんと話合つてみてもらえるかな。

ナツキ わかりました。話してみます。

ノグチ サクライさんも戻つてくるし、急がへんけど頑張つて
みてね。

ナツキ はい。

ノグチ、去つた。

トモヨ どういうこと？

ユウコ ごめん、忘れて。悪かった。

ナツキ 忘れてつて言われても、なあ。

ユウコ たいしたことじゃなかつてん。せやからホンマに忘れ

て。お願い。

ナオヤ 何かあつたん？

ユウコ . . .

トモヨ ええやん、『忘れて』つて言つてるねんから忘れてあげ
たら？

ナツキ でもそれやつたらユウコの問題は何にも解決してへん
のんと違うの？

ユウコ ごめん、ホンマに大丈夫やから。普通にするから。

ナツキ 普通にできへんやろ。表面的にはできて、いざつて
いう時に絶対何か出てくるつて。

トモヨ ええやん、表面的で。

ナツキ 何言つてんの？

トモヨ どうせ学校にいる間だけの関係やし、表面的にちゃん
とやつたらええんとちゃう？

サナエ ユウコ、ホンマに大丈夫なん？私ら何か悪いことし
た？

ユウコ いや、ホンマにたいしたこととちゃうねん。めっちゃ
ゴメンつて。マジで個人的なことやから。

サナエ 個人的なことつて？

ユウコ . . .

ナオヤ なあ、明日にせえへん？

サナエ え？

ナオヤ ミキも明日から出てくるんやろ？ほんなら明日、落ち
着いた状態でミキも含めて話したら？

サナエ えー . . .

ヒトミ ナオヤくん一票。

サナエ えー、じゃあどないすんの明日の。

ナツキ 何？明日のつて。

ナオヤ 夜やし、大丈夫やつて。

ナツキ 何かあるの？

トモヨ 合コンやんな、海猿の。

ナツキ ・・あのねえ。

ナオヤ 怒らんといたって。誘ったの僕やし。僕の連れが前か

らどうしてもって言うて、きかんかってん。

トモヨ 明日も集合？

ユウコ ごめん。

ナツキ じゃあ今日と同じ時間にここでいい？

ナオヤ いいよ。

ナツキ ミキには私から言うとかわ。

トモヨ アホらし。

トモヨ、去った。

ナオヤ じゃあ明日。(去る)

サナエ あ、ちょっと待って。(ナオヤを追いかけて去る)

ヒトミ、二人が去った方を見ている。

ナツキ みんなに言われへんかったら、できれば、私にだけ

も言うてな。気が向いたらいいから。誰にも言わへんし。

ユウコ ありがとう。

ナツキ、去った。

ヒトミはあきらめて寮に戻った。

ユウコ、一人残される。

タバコを取り出し、火をつけようとライターを探すが
見つからない。

ユウコ まずかったなあ。

スズハラが現れる。

ユウコと少し離れた場所に座り、ポケットからタバコ
を取り出すと火をつけた。

ユウコ すいません。

スズハラ (ユウコを見た)

ユウコ 火貸してもらっていいですか？

スズハラ (ライターを渡した)

ユウコ ありがとうございます。

スズハラ 頑張ってる？

ユウコ はい。・・いや、あんまり。

スズハラ そら問題や。しっかり頑張らんと、未来の看護婦さ
んなんやから。

ユウコ あの。“師”です。看護“師”。

スズハラ 国が認めても俺は認めへんぞ。

ユウコ はい？

スズハラ ナースやろ？

ユウコ ええ、まあ。

スズハラ ナースっていう言葉は『いたわる』とか『育てる』

とか『慈^{いっく}しむ』とか、そういう意味やで。せやから看護婦さ

んはナースやし、保母^{うはは}さんもナースやし、乳母^{うはは}やさんもナ

ースやねんで。

ユウコ へー。

スズハラ インテリやろ。

ユウコ えっと、食堂の。

スズハラ おう。

ユウコ 酒屋さん。

スズハラ なんでやねん。

ユウコ いつも物運んではるとこしか見たことないから。
スズハラ そらそうや。食材届けるのが仕事やねんから。

ユウコ あ、そういうことか。

スズハラ 作るのも上手いで。

ユウコ そんな感じですね。

スズハラ 長いこと一人でいると、勝手に上手くなっていくんや。

ユウコ はあ。

スズハラ ところで一つ聞きたいんやけど。

ユウコ 何ですか？

スズハラ 婦長さんっておるやん、看護婦の婦長さん。

ユウコ ええ。

スズハラ 看護師になったら何て呼んでるの？

ユウコ 師長さんです。看護師の師長さん。

スズハラ 納得いかへんな。

ユウコ そんなこと言われても。

スズハラ シチヨウって言うたら大阪市とか、神戸市とか、そういう市長さんを思い浮かべてしまいうる？

ユウコ そうですね。

スズハラ 看護師のシチヨウ。絶対納得いかへん。

ユウコ わかりましたって。

スズハラ、アーモンドチョコの箱を出してユウコに渡した。

スズハラ シチヨウを覚えてくれたお礼や。

ユウコ ありがとう。

スズハラ 味わって食べや。一粒3千円くらいやで。

ユウコ え、何で？

スズハラ 1200回まわしたのに当たらんかったんや。

ユウコ パチスロですね。

スズハラ 何で分かるねん。

ユウコ 父も好きでしたから。

スズハラ お父さんか。

ユウコ はい。

スズハラ それもええなあ。娘が看護婦。嫁が看護婦よりも数段グツとくる。

ユウコ あの。

スズハラ でも娘が寮暮らしやったら、お父さん寂しいやろうな。

ユウコ いえ、亡くなりましたから。

スズハラ ・・すまん。

ユウコ いえ。もう、随分前のことですし。

スズハラ それで看護婦になろうと思ったんか？

ユウコ それもあるかもしれんけど。叔母が看護師ですごく好きだったんです。それと。

スズハラ それと？

ユウコ 私、小さい時入院してたことあって。髄膜炎ずいまくえんっていう病気で。短い期間やったけど結構怖い病気で。その時にお世話

話になった看護師さんがすごく優しい人で、それでなりたくなーって思ったんです。・・早く家も出たかったし。

スズハラ あ、それは俺もわかるわ。昔、肺切って入院してた時すごい世話になったからな。病气って、病气そのものを治

したんは医者かも知れんけど、病气になってもうたつていう心を治してくれたんは看護婦さんやったもんなあ。

ユウコ 白い手がね、やさしい、やわらかい白い手が、毎日のように頭を撫でてくれてた記憶があつて。母親じゃないのに

母親みたいなやわらかい手。そういう手に私はなりたいたいあつて。

スズハラ じゃあ頑張って白衣の天使にならんな。

ユウコ でも、いざなってみようとしたら、全然白衣の天使やなかったですよ。

スズハラ え？

ユウコ いつも寝不足でキリキリしてて、重い患者さん運んで腰痛めたり、ストレスで身体壊したり。・針刺したり、^{くだま}管挿したり、吐いたものかけられたり、便付けられたり。・全然天使じゃないですよ。

ユウコを浮かび上がらせる明かり

ユウコ 翌日の話し合いで、私はグループ換えすることなく、ミキと同じチームで実習に行くことになった。それから毎日顔を合わせているけれど、実習の準備や記録が忙しくて、ほとんど二人で言葉を交わすことがない。忙しさに感謝。このまま何事もなく1年半が過ぎてくれるのを待つばかりだ。食料配達のおじさんはスズハラさんという。良く見ると、ほとんど毎日学校と病院に来てることに気が付いた。ということとは私達と患者さんの胃袋はスズハラさんによって支えられているということになる。これはすごい。スズハラさんは私に会うたび景品のお菓子をくれた。女の園でチョコレートはいくらあっても余ることがない。貰った分はすぐにチサトたちにもシヤムシヤと食べられてしまった。神様、私達にもっとチョコレートをお与え下さい。

暗転。

4

キョウコ座って日誌に記入している。

ミヤコは鉢植えを見ていた。

ミヤコ これって何の木？

キョウコ んー・・

ミヤコ あ、書いてあったわ。『ポインセチア』。

キョウコ ふうん・・

ミヤコ ポインセチアって、あれやんな、クリスマスによく見る赤い、葉っぱだけのやつ。

キョウコ ああ、うん。

ミヤコ 誰か毎日水やってるねんな。

キョウコ え？

ミヤコ 土、湿ってる。

キョウコ そら誰かが水あげな枯れるやろ。

ミヤコ 誰が？

キョウコ さあ。

ミヤコ、煙草を取り出し火をつけた。

キョウコ あれ？

ミヤコ ん？

キョウコ 禁煙してたんとちゃうの？

ミヤコ んー、病院にいるとね、我慢できんようになって。

キョウコ せっかく辞めてたのに。

ミヤコ ゴメンって。

キョウコ うちの看護師さんも吸ってる人多いよね。

ミヤコ 看護師の喫煙率って一般の人の倍やねんて。

キョウコ うそー、そんなに？身体に悪いの解ってるのに何で吸うんやろ。

ミヤコ 我慢できへんねんって。私も仕事してた時はストレス

で吸わんとやっつてられへんかったもん。

キヨウコ そうなん？

ミヤコ 思った通りにできへんって、やっぱりもどかしいね。

キヨウコ ・ ・ ・ できた。(日誌を渡す) はい。

ミヤコ ん、ご苦労さま。

キヨウコ ゴメンな、出すの遅れて。

ミヤコ 大丈夫、ダイジョーブ・あ、ここ、日付。

キヨウコ ゴメン、ゴメン。(受け取って) 今日って何日だった？

ミヤコ 六月四日。

キヨウコ (書く) 早いなあ。この前戴帽式やったとこやのに。

ミヤコ 実習始まったらあつという間やったな。

キヨウコ 実習かあ。話には聞いてたけどやっぱりキツイね。

ミヤコ ウチ、まずはまず看護師恐怖症になりそうやわ。

キヨウコ うんうん。

ミヤコ 看護師って、ジキルとハイドみたいちゃう？

キヨウコ 患者さんの前やとやさしいのにな。

ミヤコ ドクターの前とかね。

キヨウコ 昔、職場でもおつたわ、そういう人。お客さんとか

上司とか、男の人には愛想よくて、部下とか女にはすごくキ

ツイ人。

ミヤコ あー、うちの職場にもおつたなあ。

キヨウコ 本性教えてあげたくなるよね。

ミヤコ 思う思う、ナスレーションでボソツと言うてる低

い声聞かせてやりたいわ。

キヨウコ 私、あれが怖いねん。

ミヤコ 何なに？

キヨウコ 「で？」。

ミヤコ あー、ウチも今日言われた。「で？」

キヨウコ 「で？」

ミヤコ 「で？」

キヨウコ 「で？」

ミヤコ 「で？」

キヨウコ 寝んと考えてきたのに看護予定言うたら「で？」や

もんな。

ミヤコ 「で？」「は？」「なんで？」

キヨウコ トラウマになりそう。

ミヤコ 自分らも学生の時はあつたんやから、もうちょっと優

しい言い方してくれたらええのにな。

キヨウコ でも3年くらい勤めたらみんなああなるねんて。

ミヤコ うちらは絶対、後輩には優しくしたろな。

キヨウコ うん。

アイ、寮棟に向かって通りかかる。

ミヤコ あ、アイ。ちょっと待って。

アイ、立ち止まった。

ミヤコ またみんなにも言うけどな、八日に予定してた中間カ
ンファレンスが、九日に延期になったって。

アイ、答えずに携帯電話でメモした。

ミヤコ わかった？

アイ なんて？

ミヤコ え？

アイ なんて延期になったん？

ミヤコ 臨床指導の・ ・ ・ 何ってだったっけ？

キヨウコ カガ主任？

ミヤコ そうそう、カガ主任が都合悪くなったんやって。

アイ ふーん。

アイ、少し笑った。

キヨウコ 何？

アイ え？

キヨウコ 何がおかしいの？

アイ 別に。・・聞いてない？

キヨウコ 何を？

アイ カガ主任の噂。

キヨウコ 噂？

アイ 知らんねんやったら知らん方がええかもね。

キヨウコ 何？気になるやん。

アイ 入院患者の家族とつき合ってるって。

キヨウコ ええやん、主任さんかてプライベートはあるねんから。そういうこともあるんやろ。

アイ それが、小児科に入院してる患者さんの父親らしいよ。

まあ、いわゆる不倫てやつ？

キヨウコ 誰がそんなこと言うてるの？

アイ 看護師さんたち。カガ主任、その人と密会する為にしょ

っちゆうシフト変更してるって。ミヤコさんも聞いたことあるでしょ？

ミヤコ まあ、噂は噂やから。

アイ せやから今回もそうなんかなーと思って。

キヨウコ そんなんわからへんやん。仕事の都合かもしれへんし。

アイ だって、あのキャラでそんなこと言うてもちよつと説得力なさそうやん。点滴下手すぎて患者さんからクレーム来て

以来、自分でせえへんとか、主任なる時モメて他の看護師さ

ん何人も辞めたとか、いっぱい伝説あるみたいやし。

ミヤコ まあうちらは一日延びて助かったんやから。

アイ そうやね。

ミヤコ とりあえず、また連絡まわすわ。

アイ わかった。

ミヤコ 集団遊びの企画も発表するからちゃんと来てな。

アイ はい。

アイ、建物に入ってゆく。

キヨウコ 私、アカンねんなあ。ああいう子。

ミヤコ え？

キヨウコ 許されへんかも。

ミヤコ ああ・・でもまあ、一応やるうとしてるし、ちよつと

ずつでも変わっていくんとちゃうかな。

キヨウコ 寝てたやん。

ミヤコ え？

キヨウコ 今日、申し送りで。

ミヤコ ああ、面白かったな。立ったままスーツ、スーツって

器用に寝息立てて。

キヨウコ ハラ立たへんの？

ミヤコ 別に、ウチはあんまり。

キヨウコ うちの子の方がよっぽど素直に言うこと聞くわ。

ミヤコ まあ、みんな記録とか調べ物で毎日寝る暇ないねんし、

気持ちかわかるやんか。

キヨウコ けど、あんな風に寝へんやろ。やる気なかったら辞

めたらええねん。誰もあの子に看護師なってくれて頼んだ

訳やないねんから。

ミヤコ、日誌をキョウコに振って見せた。

キョウコ　・・って、私も子供の事で遅刻したり打ち合わせ行かれへんかったりしてるからあんまり人のことは言われへんけどな。

ワタナベ、現れる。

ワタナベ　ちょっと一本吸わせてもらっていい？

キョウコ　あ、はい。

ミヤコ　どーぞ、ドーズ。

ワタナベ、煙草を出す。

ワタナベ　どう？ 実習。

ミヤコ、キョウコ顔を見合わせる。

ワタナベ　楽勝？

ミヤコ、キョウコ首をぶんぶんと横に振る。

ミヤコ　子供は可愛いんですけどね。

ワタナベ　あー、可愛いよねー。

ミヤコ　初めっから違う科やったらキツかったかもしれへんけど、小児科で良かったーって。

ワタナベ　へー、そう思うんや。

ミヤコ　やっぱり年寄りとは違うわ。

ワタナベ　え？

ミヤコ　あ、いや、年寄りもかわいかったんですけどね、やっぱりかわいさが違うじゃないですか。看護もどっちかというとお世話するっていうより遊び相手って感じで。

ワタナベ　看護は遊び相手と違うよ。

ミヤコ　わかってますって。

キョウコ　私は、辛いです。かわいいから余計に。

ワタナベ　どうして？

キョウコ　自分の子と同じくらい年ののに、なんでこんな目に合わなあかねんやろうって思ってる。

ワタナベ　ミウラさんの担当って確か・・

キョウコ　八歳の女の子です。急性リンパ性白血病。

ワタナベ　白血病か。マルクは？

キョウコ　初日に見ました。実習中は絶対病院で泣かないって決心して行ったのに、いきなり泣いてもうて。

ワタナベ　（ミヤコに）見た？

ミヤコ　いえ。話は聞きましたけど。

キョウコ　腰骨に針刺して、骨髄を注射器で吸って。その子、腫瘍細胞が九〇%以上あって骨髄がネバネバやったから、なかなか引き出せなくて、結局二ヶ所穴開けて。それを聞いたその子のお母さん、ものすごい泣きはって。

ワタナベ　うん。

キョウコ　私もそれ見てるだけで勝手に涙が出てて。

ワタナベ　辛いよなあ。でも昔は助からへん病氣やったけど、今は治療すれば八割は助かる病氣やから、どうしてでも治療していかなあかなからなあ。

キョウコ　一日おきに採血があるんですけど、その子、朝くけ駆血帯たい見るだけで泣いて逃げ回って。ホンマにすごく辛いです。

ワタナベ　何て声かけてる？

キョウコ　え？

ワタナベ　手握って何か言うてあげてる？

ワタナベ　え？

ワタナベ　え？

ワタナベ　え？

ワタナベ　え？

ワタナベ　え？

ワタナベ　え？

ワタナベ　え？

ワタナベ　え？

キョウコ 一応・・
ワタナベ いちおう？

キョウコ いえ・・いつつも母親が「早く病氣治すために我慢しようね」って言うてはって。

ワタナベ で？

キョウコ ・・え？

ワタナベ 黙って見てたん？

少し、間。

ワタナベ ま、ええか。

キョウコ え？

ワタナベ 学生やもんなあ。

スズハラ、ダンボール箱抱えて現れる。

スズハラ あ、ワタナベ先生。

ワタナベ こんにちは。

スズハラ こんにちは。指導熱心やね。

ワタナベ 違いますって。ちよつと雑談。ねー。

ミヤコとキョウコ、曖昧に笑う。

スズハラ こんな素敵な先生が担任やねんやから、しつかり教わるときや。

ミヤコ・キョウコ はい。

ワタナベ もう、やめてくださいって。

スズハラ、ダンボール箱からグレープフルーツを出し、

ミヤコとキョウコに渡した。

スズハラ これ、あげるわ。

ミヤコ え？

キョウコ いいんですか？

スズハラ かまへん、かまへん。いつもちよつと多めに積んでるから。

ミヤコ ありがとうございます。

スズハラ (ワタナベに渡そうとする) はい、先生の分。

ワタナベ いえ、結構です。

スズハラ そんなこと言わんと。

ワタナベ こう毎日毎日やと心苦しくなるんで。

スズハラ そんなこと言わんと、職員室で皆さんでどうぞ。

グレープフルーツは匂い嗅ぐだけで体温が上がって脂肪を燃やす効果があるらしいですわ。

ミヤコ へー。

スズハラ それと女性を若く見せる効果も。

キョウコ 若く見せる？

スズハラ グレープフルーツの匂いを嗅いだ男の目には、女性が平均六歳は若く見えるって。

キョウコ ホンマ？

スズハラ あくまでも実験結果らしいけどね。

ミヤコ 私らも若く見えるかな？(スズハラに匂いを嗅がせる。)

スズハラ (吸って) うわー、高校生に見えるわ。

キョウコ 私は？(匂いを嗅がせる)

スズハラ (吸って) うわー、大学生に見えるわ。

ミヤコ 先生は？(匂いを嗅がせる)

声 キャー！

建物からユウコ、チサト、ナツキが飛び出して来る。

ワタナベ どうしたん？

チサト クモ、蜘蛛！

ユウコ こーんな、おつきいクモが入ってきて・
ナツキ ウチ、ちよつと行ってくるわ。

ナツキ、学校の方へ向かって走る。

ユウコ どこ行くのー！

ナツキは無視して行ってしまった。

ユウコ ・・もう。

ミヤコ どこに出たん？

チサト 寮のトイレ。

ミヤコ (キョウコに) 見に行く？

キョウコ (首を横に振る) 絶対無理。

ミヤコ 行ってこよ。

ミヤコ、建物に入っていった。

ワタナベ もうー、何騒いでんの。田舎やねんからムシぐらい
しよっちゆう出てるやんか。

チサト でも、こんなんですよ、こんなん！足もこーんなん！
ユウコ 3人で追い出そうとして棒でシツシツしてしたんです
けどね、その棒にシヤカシヤカ・・って上がってきて。

キョウコ えー、こわー。

チサト あー、思い出しただけでサブイボが・
スズハラ ・・行つたるか？

チサト ホンマですか？

スズハラ やつつけるか追い出したつたらええんやろ？

チサト はい！

ワタナベ ちよつと。寮の女子トイレでしょ。男の人を中に入
れるわけにはいかへんよ。

チサト でもお。

ユウコ ちよつとだけ。

ワタナベ ロビーならともかく、トイレって・

チサト ほんならワタナベ先生は？

ワタナベ え？

チサト 先生、やつつけて下さいよ。

ワタナベ えー、何で？

チサト 先生しかいないじゃないですか？

ワタナベ そんなことないって。

ユウコ お願い！

ユウコ お願いします！

ワタナベ ・・しゃあないなあ。(チサトとユウコに) どっちか、
古新聞持ってきてくれる？

チサト はい！

チサト、建物の中に入っていった。

ワタナベ、軽く準備体操する。

ワタナベ 最近、身体なまってるからなあ。(叩く真似) ていっ！
ていっ！

すると学校の方からナツキとツヅキが現れる。

ナツキ こっちです！こっち！
ツヅキ トイレやんな。
ワタナベ あ、ツヅキさん。

ワタナベ、豹変した。

ツヅキ (ナツキに) なんや、ワタナベ先生おるやんか。
ワタナベ え？なに？

ツヅキ いえ、何にも。

ワタナベ お願いしますうー。もうー、私、ムシ苦手なんです
よおー。

ツヅキ 大丈夫。すぐにやつつけますから。

ワタナベ ありがとうございますー。

スズハラ 男は入ったらあかんのやろ。

ワタナベ ツヅキさんは学内の人間だからいいんです。

スズハラ 納得いかなあ。

ツヅキ とりあえず、ここは僕が処理しますから。

ワタナベ 助かりますうー。

ナツキ ツヅキさん、早く。

ツヅキ はい。

ナツキ こっち、こっち！

ナツキとツヅキ、建物の中に入ってゆく。

ワタナベも続いて入っていきこうとして、引き返してくる。

ワタナベ あ、そうそう。これ下さいね。

と、グレープフルーツを持ち、建物の中に去った。

ユウコ 何、あれ。

キョウコ ええやん。わかりやすくて。

スズハラ さっきまで自分でやる気満々やったくせにな。

キョウコ ある意味かわいいですよ。

スズハラ ま、そろそややねんけど。

ユウコ ・・え？

ユウコ、スズハラを見た。

スズハラ ・・何やねん。

ユウコ スズハラさん、ワタナベ先生はハードル高いと思うで。

スズハラ ええやんか。

ユウコ なんでキツイって分かってて行くの？

スズハラ え？なんか、いいやん。ビシビシ言われる方が来る

ねんなあ、俺。

ユウコ うわー、そんなとこまでそっくり。

スズハラ え？

チサト、新聞紙を手に走りこんでくる。

チサト これ、新聞！・・あれ、先生は？

スズハラ ツヅキさんとクモ退治に行ったわ。

チサト ツヅキさん？

ユウコ ほら、事務の若い方の。

チサト ああ、あの人か。(新聞を見て) じゃあ、これは？

ユウコ もう、ええんとちやう？

チサト なーんや。

キヨウコ 私、もう行くのかな。
ユウコ お疲れ様です。
キヨウコ おつかれ！。

キヨウコ、去った。

スズハラ 俺も行こな。あ。

スズハラ、ポケットからチョコレートを出してユウコに渡した。

スズハラ それは一万円くらいや。

チサト え？

ユウコ また負けたん？

スズハラ また、言うな。

ユウコ (パチンコの仕草) これ。

チサト ああ。

ユウコ ギャンブルなんて大体勝てへんの分かってるやん。何

で懲りへんのよ。

スズハラ 男にはな、負けるとわかっても行かなアカン時が

あるんや。

ユウコ みんな同じこと言うなあ。

スズハラ みんなって？

ユウコ 内緒。(チサトに) ねー。

スズハラ それ、味わって食べや。

ユウコ ありがとう。

スズハラ、去った。

チサト なんか、今のやりとり。
ユウコ うん。
チサト おっちゃん、そっくりやったな。
ユウコ 勝てへんところもな。

二人、少し笑った。

チサト あ。

ミキが学校の方から現れた。
ユウコ達に気付き、軽く会釈して寮棟の方に通り返り過ぎようとする。

チサト ミキ。

ミキ ・何？

チサト お母さん、具合どう？

ミキ ああ、うん、大丈夫。まだしびれは取れへんみたいやけど、安定してる。

チサト よかったな。

ミキ ありがとう。

チサト ユウちゃん。

ユウコ 分かっているって。毎日実習で顔合わせしてるねんから。

チサト けど、こういう話ってちゃんとしてへんのちゃう？

ユウコ (答えない)

ミキ (ユウコに) あの、チサトさんって知ってるの？

ユウコ うん。言うてん。イトコやし。

ミキ イトコ。

ユウコ チサトのお母さん、お父さんの妹やねん。

ミキ そうなんや。なんか、ゴメンな。

チサト 何が？

ミキ 氣い使わして。

チサト そっちこそ。もっと言いたいことあるんと違うの？

ミキ うん。(ユウコに)・お母さんな、もう大分安定してき

たからハビリ始めてる。

ユウコ そう。

ミキ 娘二人が働く姿を見なあかんから頑張るって。

ユウコ え？

ミキ ちゃんと言うときたかったけど、みんなおるし、二人で

話するヒマなかったから。

ユウコ 何で？

ミキ え？

ユウコ 何で知ってるの？

ミキ ・・ゴメン。

ユウコ 言うたん？

ミキ (頷く) 今同じクラスで、一緒に実習行ってるって。

ユウコ 何で？

ミキ お母さん入院して、ものすごい落ち込んでたから。退院

しても元の仕事に戻れるかどうかからんし。お母さん、自

分も看護師やから大体わかるやん。それで凄く虚しくなった

みたいで。だから。

ユウコ だから言うたん？

ミキ 約束破ったことはゴメン、謝るわ。でもウチ、何とかお

母さんを励ましたくって。

ユウコ 関係ないやん。

ミキ 関係、ない？

ユウコ うち、小さいときからずっとお母さんは死んだって聞

かされてきてんやんか。せやから今更何か期待されても困る

わ。「お母さん頑張ってる」って言われても、ああそう、って

思うだけやし。

チサト ユウちゃん。

ユウコ 戻るわ。

ユウコ、寮棟に行きかける。

ユウコ うち、会わへんから。絶対。

ユウコ、去った。

チサト ごめんな。

ミキ ううん。

チサト ユウちゃんはああ言うてるけど、たぶんミキとお母さ

んのこと、すごい気にしてると思うで。

ミキ ありがとう。

チサト 頑張りな。

チサト、寮棟へ去っていった。

サナエ、学校から現れる。

サナエ あ、ミキ。

ミキ ん？

サナエ アイ、部屋におるか知らへん？

ミキ ううん。

サナエ そっか。

サナエ、寮棟の方へ行きかけて何かを思いつく。

サナエ あ、そうや。なあ、ミキって今日の夜ヒマ？

ミキ ヒマっていうか、看護記録と調べものはあるけど。
サナエ そんなんうちも一緒やって。土日に関せば大丈夫や
ろ？

ミキ え、まあ。・何？

サナエ ご飯食べに行かへん？ナオヤくん、友達と一緒にこっ
ち向かってるんやけど、ヒトミがドタキャンして、女の子の
人数足りへんねん。

ミキ え、人数って。

サナエ 向こうはナオヤくんと友達が二人で三人やねん。こっ
ちは今ウチとアイと二人やねんけど、二人やとナオヤくん一
人になってしまいうる？自分でセッティングしたのに一人っ
てかわいそうやんか。頼むわ。

ミキ ・・わかった。ご飯だけやったら行くわ。

サナエ あ、一応外出届け出しといたるから、着替えたらすぐ
ここに来て。すぐ出るし。

ミキ うん。

学校の方からナオヤ、カズヒコ、トモツグ現れる。

ナオヤ サナエ、アイおった？

サナエ ごめん、今見てくる。あ、それとミキがヒトミの代わ
りに来てくれるって。

ナオヤ その格好で？

サナエ すぐ着替えてくるって。なあ。

ミキ うん。

サナエ ちょっと待ってて。うち、アイ呼んでくるわ。

ナオヤ わかった。

サナエ (ミキに) 行こ。

サナエ、ミキを連れて寮棟に入っていた。

カズヒコ お前やつぱりうらやましいわ。こんなお花畑みたい
なところに毎日おれて。

ナオヤ そうでもないよ。

カズヒコ 俺らなんか男ばかりやから、むさ苦しくてたまら
んで、ホンマ。

ナオヤ そっちもちょっとは女の子おるんやろ？

カズヒコ あんなん、こっちの子らと比べたらもう・

ナオヤ そうなん？

カズヒコ 完成度が違う、完成度が。

ナオヤ 中入ってみる？

カズヒコ ええんか？

ナオヤ 食堂やったら大丈夫や。

カズヒコ 女の子ばかりやろ。

ナオヤ 今の時間帯はあんまり沢山おらんと思うけど。

カズヒコ おい、トモ、どうする？

トモツグ タバコ吸える？

ナオヤ タバコはあかん。ここだけ。

トモツグ じゃあここでええわ。

カズヒコ えー、ええやんか、行こうや。タバコぐらいどこで
でも吸えるやろ。

トモツグ 行きたかったら行ってきたら？

ナオヤ 案内するで。

カズヒコ ホンマに？

トモツグ 俺、ここにおるし。

ナオヤ 行こ。

カズヒコ 緊張するなあ。

ナオヤとカズヒコ、建物に入ってしまった。

トモツグ、タバコに火を付けて吸い、ポケットから文庫本を出して読みはじめた。

学校の方からヤヨイ、アヤカ、ヒデオがやってきた。

ヤヨイは手に資料の紙を持っている。

アヤカ エエ感じやん。

ヒデオ アネキがな、保育園でやって子供に評判良かったんや
って。

アヤカ へー、さすがやね。ウチ、こんなかわいらしいこと思
いっかへんわ。

ヤヨイ でもこれ、サルに扮装したうちらに向かって、子供達
がボールを投げて当てるってことやんな。

ヒデオ うん。二チームに分けて得点を競わせるねん。

ヤヨイ サルに向かって物を投げるって、どうやろ。

ヒデオ え？

アヤカ ええやん。面白いと思うで。

ヤヨイ 教育的な観点からは、あんまりええことないって突っ
込まれるんと違うかな。生き物に物をぶつけることが楽しい
って。

ヒデオ そうか。

アヤカ えー、せっかく面白そうやのに。

ヒデオ でもアカンって言われるかもな。

ヤヨイ こうしたらどうかかな。サルはお腹を空かせてるから、
みんなで食べ物をあげよう、とか。

アヤカ 食べ物？

ヤヨイ ボールにバナナの絵を描いた紙を張って、それをサル
役の人に投げてキャッチさせるって風にしたら？

ヒデオ ああ、それで困ってるサルを助けるって風にする

んか。

ヤヨイ 物を食べると元気になるってことも教えられるし。

ヒデオ それいいやん！いいと思うよ。

ヤヨイ 導入部に寸劇を入れて、それからゲームに移ったら？

ヒデオ うん。ほな、それでもうちよつとまとめてみるわ。

ヤヨイ ゴメン、悪いけどお願い。

ヒデオ わかった。さすが。ヤヨイってやっぱり頭ええな。

ヤヨイ そんなことないよ。

アヤカ 医者目指してたもんな。

ヒデオ え？そうなん？

ヤヨイ うち、開業医やから。

ヒデオ それでか。すごいなあ。

ヤヨイ すぐくないよ。結局頭悪かったからここにおるんやし。

アヤカ でも大学編入は目指すんやろ？

ヤヨイ どうかかな。

アヤカ え？

ヤヨイ 最近、そんなことしてもどうかなって思って。

アヤカ 行かへんの？

ヤヨイ 正直、看護師ってレベル低いと思ってたんやけど、ち
ゃんとやろうとしたら全然そんなことないなって思って。技
術もいるし、臨床って充実感あるし。私には丁度よかったな、
と

思

ヒデオ ヤヨイは向いてると思うよ。

ヤヨイ そうかな。

ヒデオ うん。

ヤヨイ ありがとう。

アヤカ あ、ヒデオくん、サルの扮装のことやねんけど。

ヒデオ ああ。

アヤカ 材料費とかかかるから、ちょっと相談してもいいかな。

ヒデオ うん。

ヤヨイ ごめん、私戻っていい？ちよっと約束あるから。
ヒデオ あ、わかった。助かったわ、ありがとうな。

ヤヨイ、寮棟の方に行った。

アヤカ 今日、合コンやねんで、ヤヨイ。
ヒデオ え？

アヤカ トモヨのお兄さんの紹介で医学部の人らと。最近しょ
っちゅう行ってるみたい。

ヒデオ ……

アヤカ よかったな、決まったやん、集団遊び。

ヒデオ え？あ、うん。

アヤカ ヒデオくんのお姉さんが保母さんで助かったなあ。あ、
今は保育士って言うんやっけ。

ヒデオ うん。俺も一時期は保育士になろうかと思ったんやけ
どな。子供好きやし。

アヤカ あー、向いてそう。

ヒデオ せやからできれば小児科で働きたいなあって思うわ。

アヤカ うちも。

ヒデオ でも子供が好きなのはあかんねんなあ。

アヤカ そんなことないよ。好きってすごい大事やよ。

ヒデオ いや、あかんよ。もつとちゃんといろんなこと考えて
できるようにならな。(資料見る)

アヤカ 食堂行こか。

ヒデオ え？

アヤカ 打ち合わせ。小腹空いたし。

ヒデオ 自分、いっつも小腹空いてるなあ。

アヤカ うるさい、行くで。

アヤカとヒデオ、建物の中に入って行った。
アイが出てくる。トモツグに気付いて。

アイ あ、トモくん。

トモツグ (本を閉じて顔を上げる)

アイ ごめん、お待たせ。また難しい本読んでるの？

トモツグ そんなことないよ。

アイ 私、本読む元気がないわ。教科書と資料見るだけで精一杯。
トモツグ 俺ら授業は一応あるけど、どっちかっていうと身体
動かしてばっかりやからな。こういうの見て現実逃避せな、
やってられへんねん。

アイ 身体動かすって？

トモツグ 柔道と剣道と逮捕術。射撃訓練とかも。実弾撃てる
のはちよつと楽しいな。

アイ 実弾？

トモツグ 一応な。取調べの授業とかもあるよ。教官が犯人役
になって俺ら何人かで尋問していくねん。

アイ 面白そう。

トモツグ これがなかなか教官が上手くて、クチ割らへんねん。

アイ へー、何か楽しそうやな。海上保安学校ってそういうこ
としてるんや。泳いだりはせえへんの？

トモツグ いいや、もう泳ぎ始めてる。夏に三マイル遠泳があ
るから、その練習で。

アイ 三マイル？

トモツグ 一マイルが一・八五キロやから五・五キロぐらい泳ぐ
ねん。

アイ 五・五キロ！

トモツグ 途中でへばりそうになったら教官に水クラゲ投げら

れたりするよ。ほれ、って。

アイ うそー。

トモツグ 軍隊みたいなもんやから。身体が資本。

アイ そっか。

トモツグ もうすぐ辞めるけど。

アイ え？

トモツグ まだカズヒコには言うてへんから、内緒にしといてな。

アイ 辞めてどうするの？

トモツグ 決めてへん。とりあえず大阪か神戸に出て、仕事探そうと思ってる。

アイ なんで？

トモツグ え？

アイ なんで辞めるの？

トモツグ 何やろうな。先が見えたからかな。

アイ 先？

トモツグ 俺ら入学した時点で大体の配属が決まってるねん。まあ、学生やのに給料もらってるから仕方ないんやけど。飛び乗り手当てって知ってる？

アイ 飛び乗り手当て。

トモツグ 不審船って大体小型船が多いから、命令があると、巡視船から接舷して飛び乗るねん。船をこう、横付けしてな、船から船へびょんって。そしたら手当てが出るねん。五百

円。

アイ 五百円？

トモツグ 海に落ちたり相手が銃持ってたりにしたらどうするんやろな。

アイ イヤやって言うたら？

トモツグ 命令に背いたら処罰される。せやから五百円もらって、びょん、や。

アイ (トモツグを見た)

トモツグ 何かな、やってられへんやろ、そういうの。取り締

まる不審船ってな、だいたい密漁船やねん。生活苦しいから

法を犯して漁してるのに、そういう人を捕まえるってのも、

何かな・漫画でブームになってるから、なりたい奴多いみ

たいやし。別に俺がなんでもいいか、と思て。

アイ うん。

トモツグ ごめん、うっとおしい話やったな。

アイ ううん。

トモツグ また、どこか落ち着いたら連絡するわ。
アイ うん。

寮棟からツツキとワタナベが現れた。

ワタナベ ありがとうございました。ホントに助かりました。

ツツキ いえいえ。

ワタナベ 私なんか全然役に立てなくて。(グレープフルーツをさし出す) これ、さっき業者さんがくれたんですけど、食べ

られます？

ツツキ あ、じゃあ。(受け取る)

ワタナベ グレープフルーツは匂い嗅ぐだけで体温が上がって脂肪を燃やす効果があるらしいですよ。

ツツキ へー。(匂い嗅ぐ)

ワタナベ (ツツキをじっと見る)

ツツキ 何ですか？

ワタナベ 私っていくつに見えます？

ツツキ え？

ワタナベ 正直に言うてみてください。
ツツキ 三十二、かな。

ワタナベ (小声で) 効果ないやん。
ツツキ え？
ワタナベ いえ、何でも。

カガ、シオリを伴って学校側から現れた。

カガ ワタナベ先生ですか？

ワタナベ はい。

カガ 先ほど何度か電話差し上げたんですけど、教務室にいらっしやらなかつたようでしたので、こちらとうかがって直接参りました。

ワタナベ あの、何か。

カガ 私、小児科の臨床指導担当でカガと申します。

ワタナベ はい。

カガ 今日、実習中にナガサワさんが大変な事故を起こされまして。

ワタナベ 事故？

シオリ すいません！

シオリ、頭を下げた。

暗転。

#5

日が暮れて辺りは薄暗くなっている。

ツツキ、ナツキ、トモヨ、ユウコ、ヒトミがいる。

ナツキ 頭蓋骨陥没骨折。

ツツキ ドクターの説明ではレントゲンで見た限り、脳や硬膜

に損傷がないし、多分大事には至らんってことやったけど。
ヒトミ 手術ですか？

ツツキ いや、保存的療法で様子を見るって。

トモヨ 手術はナシってことか。

ツツキ そう。

ナツキ よかったですね。たいしたことなくて。

ツツキ うん、助かった。カガ主任が乗り込んできた時はどうしようかと思っただけど。

トモヨ ケガはたいしたことなくても、入院中の事故って後が大変やと思うけど。

ツツキ 患者さんのご両親には明日、ノグチ先生とカガ主任とナガサワさんとで改めて挨拶に行こうってことになったから。それでゴメンやけど、明日のグループワークは自分達だけでやっついてくれて、ノグチ先生が。

トモヨ 自習ってこと？

ツツキ いや、症例について看護計画と展開を話合って、各自レポートで提出してくれて。

トモヨ 結局やらなあかんのか。

ツツキ このグループのリーダーって誰？

ナツキ はい。

ツツキ みんなのレポートまとめて、明後日の九時には教務室持ってきてくれるって。他の皆にも伝えといてな。

ナツキ わかりました。

ユウコ それにしても怖いね。子供のよだれ拭いたティッシュを捨てるのにもちょっと診察台から離れただけで、転落して陥没骨折やなんて。

ヒトミ 切開やったら見学させてもらおうと思っただのに。

ナツキ やめて、そんな怖いこと。

ツツキ 子供は何するか分からへんからな。三歳ぐらいまでは目離したらアカンで。

トモヨ あれ、ツヅキさんって独身やのに詳しいですね。

ツヅキ 妹の子供がな、今まさにそんな感じでケガばっかりしてるから。この前も一緒に道歩いてて一瞬消えたと思ったら溝にハマってたわ。

ユウコ 大丈夫やったんですか？

ツヅキ ああ。子供って身体柔らかいから。でもヒヤツとしたな。運が悪いとも思いますが起こるやろうし。

ユウコ そうですね。

ツヅキ 今回のことはひとごとと違うで。実習中、事故はどこにでも潜んでんねんから、君らも気いつけや。

トモヨ はい。

ユウコ あの、ツヅキさん。

ツヅキ ン？

ユウコ ワタナベ先生は一緒に行かないんですか？

ツヅキ ・・うん。ワタナベ先生は担当やけど、やっぱり教務部長のノグチ先生が行った方がええやろうってことになつてな。

ユウコ ふーん。

ツヅキ その質問、ワタナベ先生にはしたらあかんで。

ユウコ 何ですか？

ツヅキ そらデリケートな問題やから。

ユウコ デリケート？

ツヅキ (ワタナベの口調を真似して) 何？私じゃアカンの？

そら昨日今日学校に廻されて来た教員を出したんでは、学校として体裁が悪いかもしれんけど、私かて一応監督責任があるんやから、行かなアカン時はいつでも行く覚悟がありますよ。・・とまあ、内心はこう感じるかな。

ヒトミ へー。

ナツキ ほんならワタナベ先生も一緒に行ったらいいじゃない

ですか。

ツヅキ それがなあ。

全員、身を乗り出してツヅキの話を聞こうとする。

ツヅキ アカン、あかん。こんなん言うたら俺シメられるわ。

ナツキ なーんだ。

ヒトミ せつかく面白そうやったのに。

ツヅキ 面白くないって。

トモヨ あれでしょ、ワタナベ先生とカガ主任って人が、(指を交差させてケンカの意)これって。

ナツキ えーホンマ？

ツヅキ それ、誰に聞いた？

トモヨ 見えましたもん。なんか学校でえらい言い合ってる時にたまたま通りかかって。

ユウコ ホンマ？

トモヨ ホンマ、ホンマ。

ヒトミ でも何で？

トモヨ なんか、今回の事故ってシオリの不注意は不注意やっただけど、相手も子供やから不可抗力な部分ってあるやん。それやのにカガ主任がえらい剣幕で怒りはって。ワタナベ先生も初めは謝ってたんやけど、そのうち先生にまでイヤミ言い始めたから、それで怒ってもうて。

ナツキ ワタナベ先生にイヤミ言うって、勇氣あるなあ。

トモヨ 「臨床離れてるから現場の感覚が鈍ってらっしやるでしょうけど」って。

ナツキ そんなこと言うたんや。

ユウコ そら怒るわ。

ヒトミ それでノグチ先生が間に入って仲裁しながら患者さん

にも謝りに行くことになったと。

ナツキ ややこしいなあ。

ツヅキ とにかく、ややこしいねん。病院付属の専門学校は学校内だけじゃなくて病院でのキャリアとか、人間関係とかがこう、変な感じで絡んでくるから。

ヒトミ ふーん。

ツヅキ まあそのうち自分らにも分かるようになるわ。

トモヨ とところで、なあ。ツヅキさん。

ツヅキ ・・何？

ナツキ ワタナベ先生とはどうなってるの？

ツヅキ どうもせえへんよ。

トモヨ 私ら前から不思議やったんやけど、何でツヅキさんはうちの学校の先生とか、看護師さんと結婚せえへんの？

ツヅキ あー、もうやめてくれ。

ナツキ 卒業生とか、なあ。

トモヨ 私、女子高やったからいっぱい見てきたけど、だいたいい女ばっかりの職場にいる男の人って、そこにいる人と結婚するやん。

ナツキ うちの学校やったら、卒業生とか、先生とか、ってこと？

トモヨ 病院の職員の人もほとんどが看護師さんと結婚してるのに。

ナツキ 他に付き合ってる人いはるんですか？

ツヅキ いいや。

ヒトミ ツヅキさん、ひよっとしてこれ？（オネエのポーズ）ユウコ
ちよっと、やめときって。

ツヅキ あー、そうそう。そういうことにしといてくれ、もう。

ナツキ え？

一同、ツヅキを見た。

ツヅキ 絶対言うなよ。・・ここだけの話やけどな、俺、苦手やねん。看護師。

トモヨ ホントに？

ツヅキ とりあえず、気キツなかつたらやっつてられへんやんか、ああいう仕事って。君らも実習行ってたら分かるやろ。

ナツキ そら、ねえ。なんとなく。

ツヅキ 病院にいた時から怖いなー思ってたから、誘われても近寄らんかったん。

トモヨ でも学校の先生は違うんちゃうの？

ツヅキ 学校で教えるようになる人ってな、臨床で五年ぐらい戦って勝ち抜いて来てるから、めっちゃ戦闘能力高いねんで。

君ら、それを世話する身になってみ。まわりみんな“先生”

やから誰かに味方する訳にもいかへんし。みんなそれぞれブランドがあるからなかなか引き下がらんし。

ナツキ うわー、怖そう。

ツヅキ 俺にはあの白いナース服が時々長ランに見えるもんな。

トモヨ 長ランて？

ツヅキ 長ラン知らんか。学生服の長いやつや。

トモヨ 昔の不良が着てるみたいなの？

ツヅキ そうそう。

ナツキ 白の長ランて。

ユウコ どの番長やねん。

ナツキ うちの田舎にはおらんかったけど。

ユウコ どこにもおらんってそんな奴。

ヒトミ イヤやな、裏地に竜とか刺繍してたら。

ナツキ 背中にチーム名とか書いてたりして。

ヒトミ 「外科病棟参上」とか？

ユウコ おらんやろ、そんなナース。
ヒトミ でもマスクはしてるよ。
トモヨ ・・あ。

ワタナベ、学校の方から現れる。

ワタナベ ツヅキさん、ノグチ先生が明日の訪問の時に用意し
といて欲しいものがあるからちよつと来て下さいって。

ツヅキ あ、はい。

ワタナベ それと保険の手続きをして欲しいって。

ツヅキ 保険？

ワタナベ ナガサワさんの方の。

ツヅキ ああ、彼女入ってましたっけ。わかりました、すぐ
行きます。

ツヅキ、学校の方へ去った。

ワタナベ、座って煙草に火をつける。

カガがトモヨを伴って現れる。

カガ ではワタナベ先生、失礼します。

ワタナベ あ、どうも、大変ご迷惑をおかけしてすみませんで
した。

カガ ホンマに、明日準夜勤やったのに、午前中から出てこな
あかんようになって。実習中はこっちも睡眠不足が続くから
体力持つかどうか心配ですわ。

シオリ すいません。

ワタナベ すいませんねえ。でもカガ先生は若いから、大丈夫
じゃないですか、多少寝られなくても。

カガ そんなことないですよ。ま、もう夜勤もない先生に愚痴

を言ったところで仕方ないんですけどね。

ワタナベ ええ、おかげさまでこっちに来てから睡眠時間だけ
はちゃんと取れてますから、助かりますわ。

カガ ホントにうらやましいですね。そのかわり学校やと夜勤
手当がないから大変でしょうけど。

ワタナベ いいえ、そんなに変わりませんよ、多分、そちらと。

カガ、学生たちを見た。

カガ みなさんも、気をつけて下さいね。病棟の実習ではいつ
でもどこでも事故やトラブルの原因が潜んでますから。

学生達、小声で口々に返事する。

カガ 何？返事するならちゃんとして。

学生達 わかりました。

カガ ただでさえ忙しいのに、手間取らさんといて欲しいわ。
ワタナベ 誰も起こしたくて事故なんか起こしませんから。

カガ じゃあ、ちゃんと指導してから来させて下さい。

ワタナベ してます。そっちこそちゃんと監督しといて欲しい
ですわ。

カガ してます。・・ホンマに、ナガサワさん、准看やっていう
から少しはマシかと思ってたのに。

シオリ すいません。

カガ また経過伝えるから、明日の申し送り聞いていて。

シオリ はい。

カガ それと、担当変えるから。

シオリ、何か言いかけてやめた。

カガ 何か？

シオリ いえ。

カガ じゃあ、明日。

シオリ あの。

カガ 何？

シオリ 明日、患者さんのご両親に、何か手土産みたいなものは用意した方がいいですか？

ワタナベ ああ、それやったら大丈夫だよ。ノグチ先生がツツキさんに言うてちゃんと準備されるみたいやから。

シオリ え、でもその、お金とか・

ワタナベ 大丈夫、実習中に起こったことは、学校にも責任があるから、学校で用意しておきます。

シオリ すいません。

カガ よかったね、学生で。今は学校が守ってくれるって。

シオリ はい。

カガ でも病院勤務になったら、誰も守ってくれへんからね。

シオリ (頷く)

カガ ではそういうことで。くれぐれも今後、こういうことの無いように、ご指導よろしく願いますね。

ワタナベ ええ。

カガ 失礼します。

シオリ すいませんでした。

カガ、去った。

シオリ (ワタナベに) 先生、すいませんでした。

ワタナベ、答えずにもう一本煙草を出して火をつける。

ナツキ シオリ、元氣出してな。

トモヨ 手術せんでも済みそうやし、大丈夫やってんやろ？後はちゃんと患者さんの親に謝って誠意見せるしかないから。

シオリ うん。

ワタナベ あんたらやったらどうしてた？

トモヨ え？

学生達、顔を見合わせた。

ナツキ そらパニックになると思いますけど。でも、やっぱり

シオリみたいに報告して謝るしかないと思います。

ワタナベ 違うって。私が聞きたいのは、その、ナガサワさんと同じ状況に、もしみんなが置かれたら事故を起こすような行動をとってたかってこと。

ナツキ 事故を起こすような行動？

ワタナベ (テーブル指して) そこで診察して、着替えさせて、よだれが出たから拭いて。ゴミ箱がその辺にあって。自分ならどうしてる？

ナツキ実演してみる。

ナツキ えっと、子供着替えさせますよね。で、よだれを拭いて、拭いたティッシュをこう・

ナツキ、近くのゴミ箱に捨てる動作。

ワタナベ アカンな。

ナツキ え？

ワタナベ え？

ワタナベ それやったら同じことになるのと違うの？
ナツキ でも・・

トモヨ 子供から目離したらアカンのと違うかな？

ワタナベ (トモヨに) じゃあ、ハセガワさんやってみて。

トモヨ だから、子供から意識を離せへんように・・

トモヨ、子供のいる場所に手を置いたままゴミを捨てる動作。

ワタナベ 違うなあ。

トモヨ え？

ワタナベ 優先順位がおかしいやろ。

学生達、顔を見合わせる。

ワタナベ わからんの？・・こういうことって、当たり前感覚やから手順以前やと思ってたけどなあ。

ワタナベ、煙草の火を消した。

ワタナベ 患者は乳幼児やねん。動いたら台から落ちる可能性があるがある。たいていは大丈夫やけど、百パーセントはありえない。それはわかるよね。

学生達 (頷く)

ワタナベ じゃあどうしたらいいと思う？

学生達 (目配せする)

ワタナベ 診察台の上に乗ってるから落ちるんやろ？台から落ちないようにするためには？

ヒトミ あの。

ワタナベ はい。

ヒトミ 台から降ろせばいいと思います。診察台じゃなくて、ベビーベッドとか。

ワタナベ そう。転落しないようにするためには、台の上から移動させるしかないよね。さっきやってくれたみたいに手で押さえるっていうのも一つの方法かもしれへんけど、その手をすり抜けていく可能性もあるもんね。

ヒトミ はい。

ナツキ そしたらゴミは？

ユウコ 後で捨てる？

ワタナベ 何？

ユウコ ゴミは後で捨てるつもりでいたらいと思います。全部、処置が終わった後に。

ワタナベ そう。ゴミを捨てるってことは、必要なことかもしれへんけど結局自分の仕事の段取りのことやろ？せやから絶対に、先に患者さんの処置を全部優先して終わらせてから、自分の仕事にかからなアカンねん。

ナツキ そうか、それでいつも看護師さんに「それ片付けといて」とか「捨てといて」とか「洗っといて」とか言われるんや。自分は次に優先してせなアカンことがいっぱいあるからトモヨ 私らにやらせたらいいわっていう意地悪じゃなかったんや。

ワタナベ こういうことって、注射の仕方とかじゃないからマニュアルになってないし、いちいち教えられへんやろ。でも安全を考えたらそうなるねん。・・でもこんなことなあ、いちいち説明せんでも他の人がやってるのを見て盗んだり、自分で工夫して気付くようにさせなあかんねんけど。

ワタナベ、学生達を見た。

ワタナベ 難しいなあ。人に教えるのって。

ノグチ、学校から現れる。

ノグチ ナガサワさん。

シオリ はい。

ノグチ 明日、一旦十一時二十分に教務室に来てもらっていいかな。カガ主任とは半にナースステーションに行くって約束してるから、それで一緒に行きましょう。

シオリ はい。

ノグチ ご両親には何か言われるかも分からんけど、ちゃんと聞いて、一緒に受け止めるようにしましょうね。

シオリ ありがとうございます。

ノグチ それにしてもビックリしたわ。ナガサワさんが、こんなミスをするやなんて。

シオリ すいません。

ノグチ 私らかて人間やから失敗もするし、間違いもあるけど、それが取り返しのつかへん場合もあるから。

シオリ はい。

ノグチ まあ、何でもこうなったのか良く考えてしっかり反省して。引きずらないように切り替えてね。

シオリ はい。

ワタナベ 今勉強したし、もう次からは大丈夫やんな。

シオリ あの、

ワタナベ 何？

シオリ さっきのゴミのこと。

ワタナベ ええ。

シオリ 違うんです。

ワタナベ え？

シオリ 私、ゴミ捨てるために目を離れたんじゃないんです。

ワタナベ じゃあ何で？

シオリ 言われたんです。先輩の看護師さんに。特診の患者さんが診察に入るからすぐに片付けてって。

ワタナベ 特診？

シオリ その、VIP待遇の患者さんというか・・

ワタナベ 特診の意味ぐらい知ってるよ。

シオリ 前にも同じように患者さんの診察中、特診の患者さんが入るからって言われて。でも、さっきみたいに片付けを後回しにして患者さんをベッドへ運んで戻ってきたら、もう入ってて。それで凄く怒られて。

ワタナベ それで今日は先に片付けようとしたら患者さんが転落したっていうの？

シオリ、頷いた。

ノグチ ナガサワさん。

シオリ わかってます。特診とか、怪我した患者さんには関係ないって。でもまた同じ事をしたら怒られるだけじゃなくて、単位取らせてもらえないかもしれないって。

ノグチ わかってないやん。

シオリ (答えない)

ノグチ 怒られるとか、単位取られへんとか、それで片づけを優先させたんでしょ。全然わかってないやん。

ワタナベ 何でさっき言えへんかったん。

シオリ 言っても、そら建前は患者さんを優先させなさいって言われるに決まってるし、でも結局査定するのは臨床担当の主任やし。それに・・

ワタナベ それに？

シオリ 主任は、その特診患者の父親と、その。

ワタナベ 何？

シオリ 特別な関係やから、その特診患者の父親が経営する会社から病院に寄付を取り付けるために引き抜かれたって。

ワタナベ 誰がそんなこと言うてんの。

シオリ . . .

トモヨ 私も聞いたことあります。噂ですけど。(みんなに)

なあ。

学生達頷いた。

ワタナベ 実習生にまでそんなこと広まってるの？

ノグチ ワタナベ先生。

ワタナベ とにかく、そのことと患者さんとのケガは関係ないんやから。

シオリ はい。

ノグチ (シオリに) あなたは何をしに行ってるの？

シオリ え？

ノグチ 確かにあなたの言うとおり、病院の現実は建前とは違うかもしれない。それは実習でみんな多かれ少なかれ経験することやと思うし、それが病院で働くことやと思う。でもね、私らは人の命預かってるんやから、最後は自分の信念で判断せなあかんのよ。誰のせいにもできへんのよ。

シオリ (答えない)

ユウコを浮かび上がらせる明かり。

ユウコ ノグチ先生の言うこと、ワタナベ先生の言うこと、シ

オリの言うこと、どれもよくわかる。患者さんのために、自分の看護のために、頑張れ、頑張る。でも技術が足りない。考えが浅い。覚悟が足りない。必死で笑顔でいようとしてみても、何もできない自分に、病院で立場のない自分に焦る気持ちが重くのしかかってくる。実習の記録、レポートが山積みでそれどころじゃなくなっていく。理想だけが大きくて、自信がどんどんなくなっていく。

病棟での実習イメージ。

学生たち、白衣姿で現れ、それぞれ手にはバインダー。

記録をとったり、資料を見たりしている。

その中の一人、立ち止まって。

サナエ 挨拶？しました。「おはようございます。今日も一日よろしく願います。」って。でも患者さん、ふいっと横向いたままこつちを見てくれなくて。

ヒデオ 患者さんにケアを拒否されて、結局看護師さんと一緒にお願いしに行きました。「手間かけさせんといてよ」って言われました。

チサト 清拭とシーツ交換で四十分くらいかかりました。患者さんに「風邪ひくわ！」って怒られました。

ヤヨイ 解熱用の坐薬入れて帰ったのに、赤ちゃんがいきんで出してしまったらしく、再度投与することになりました。

「どうして確認しなかったの？」って言われても、実習終了間際に指示されたし、担当の看護師さん、席外して言うヒマなかったのに。

学生たち、口々に「すみません」の声。

ナオヤ 点滴セットのチューブに気泡が入ってたので、クレン

メで止めて慌てて看護師さん呼びに行きました。患者さんを安心させることが先決やったのに、焦ってその場を離れたことが一番危険やったと後で注意されました。

ミキ 学生が付くって言うだけで初日から患者さんすごく不機嫌でした。金曜日の夕方に手術なのに、土日は学校が休みでケアできないんです。「あんた、一番大事な時におらへんのか！」って病室を追い出されました。

ミヤコ 実習中便が服についてしまったのに着替えを忘れてしまい、隙をみて寮に取りに戻りました。後で抜け出したことがバテて、やっぱり怒られました。すみません！

アヤカ がん患者のおばあさんに「心細いから一緒に寝て欲しい」って言われて、寝付くまで一緒に横になってあげることになりました。そしたら私の方が爆睡してしまって、布団からおばあさんの頭とナースキャップがはみ出していました。見つけた時はめっちゃ恥ずかしかったです！

学生たち、「すみません」「まだです」「今やります」「ちよっと待って下さい」「聞いてきます」「確認します」
の声。

トモヨ 車椅子移乗で、患者さんの足を車椅子にぶつけました。ものすごくにらまれて、その後口をきいてもらえませんでした。

ナツキ カルテ、なかなか見せてもらえませんでした。ナースステーションに居場所がなくて。看護師さんたちに「ちよっとごめん、どいてくれる？」って何回も言われました。

ヒトミ 肝臓検査の見学でひたすら見てたら看護師さんに「何ぼーっと見てるのよ！消毒薬ぐらい出せるやる！」って怒鳴られました。

キヨウコ 担当の子は注射のたびに「先生嫌いー」って叫んでました。点滴、採血、注射。針を刺すと痛いのはどうしようもなく、でも何とかしてあげたくて、でも針刺さないと治療できなくて。どうしていいかわからないです。

学生たち、「すみません」「調べておきます。」「確認してきます。」「ちよっと待ってください。」「どうしたらいいですか？」の声。

ユウコ 実習が始まって、もう十日以上経つのに、私、自分の受け持ちの患者さんが笑ってるところ、まだ見たことありません。看護師さんとは楽しそうに話してるのに。患者さんに信頼されてないんだなって思います。笑顔と気持ちだけで接する仕事じゃない。反省してもどうにもならない。自分でもこんなに向いてないって思わへんかった。

学生たち、ストップモーション。

一同 すいません。
ごめんなさい。
調べておきます。
聞いてきます。
確認します。

ちよっと待ってください。
看護師さん、呼んできます。
どうしたらいいですか？
どうしたらいいですか？
どうしたらいいですか？
どうしたらいいですか？

どうしたらいいですか？

学生達、再び口々に「すいません」と言いながら通り過ぎてゆく。

場面は再び夜の庭へ。

アイとトモツグがいる。

トモツグ、鉢植えを眺めていた。

トモツグ これ、ポインセチア？

アイ え？知らんけど。

トモツグ 何でやねん。

アイ だって植物とか興味ないし。

トモツグ 俺も興味なかったんやけどな、もらったことあるねん。

アイ ポインセチア？

トモツグ うん。クリスマスに。

アイ 彼女？

トモツグ 元、な。

アイ 普通逆ちゃう？

トモツグ 俺の部屋、殺風景すぎるからって。あ、そうやわ、やっぱり。

アイ どうしたん？

トモツグ え？

アイ ポインセチア。

トモツグ 一応育てたよ、その時は。頑張っているいろいろ調べて。アイ ヘー。

トモツグ 面倒くさいな、植物って。水ひとつ遣るにしても、乾きすぎないように、湿らせすぎないようにって。

アイ 私、絶対無理やわ、そんなん。

トモツグ 自身満々に言うなよ。

アイ だって植物って黙ってるやん。

トモツグ そらしゃべったら気持ち悪いやろ。

アイ ほっといても文句言わへん物の世話とか出来へんなって思う。

トモツグ よかったな、人間相手で。

アイ、答えなかった。

トモツグ 俺な。

アイ 何？

トモツグ 退学届け出してくるわ。明日。

アイ そう。

トモツグ 切り戻しやな。

アイ 切り戻し？

トモツグ ポインセチアってな、育てる時、春と夏に根元から15センチぐらいで切らなアカンねん。

アイ 何で？

トモツグ 放っておくといらぬ枝が養分取ってしまうから。本体が弱らんように。

アイ いらぬ枝か。

トモツグ いらぬ枝に余計な養分が取られる前に、早めに切って新しい良い枝が生えてくるようにって。

アイ なんか。

トモツグ 何？

アイ うちらみたい。

トモツグ え？

アイ あのな、うちも辞めよかなあと思て。学校。

トモツグ そうなん？

アイ 別に私、元々どうしても看護師になりたかった訳じゃないし。

トモツグ うん。

アイ アカンかったわ。立ちっぱなしの仕事って。それだけじゃなくて、なんていうか、人間が怖い、って思った。・・やっぱり向いてへんよな。

トモツグ (少し笑った) そうやな。

アイ 手術見学があつてな・・手術が終わった時な、先生が言うてん。「お腹閉める前に何か見たい内臓ないか」って。

トモツグ え？

アイ そしたら他の子が「胆のうが見たいです」って言うて、先生が胆のうを見せて。患者さんは全身麻酔だからそんなこと全然知らんと寝てるんやろうなって思った。全部終わった後、他の子は「ヒトの内臓がこんなにキレイやって思わなかった」とか言うて。そのままみんなお昼ごはん食べに行つてた。

トモツグ うん。

アイ ・・何て言うんかな。私、このままここにおつたら、平気になるんかなって思った。実習で同じ病棟の患者さんが亡くなった時も、看護師さん、処置してその後、普通にご飯食べてはった。私、看護師になったらこんな風に慣れていくんや、って思った。それって私になりたいことやったんかなって。大変な仕事やってことは凄くよくわかつたんやけどな。

トモツグ (アイを見た)

アイ 手術しても看病しても、人っていつかは絶対に死んでしまうのに、それを傍でずっと見続けることが私にできるんかな、って。

トモツグ、ナイフを出してポインセチアの枝を切った。

トモツグ 伸びすぎやから。いらん枝。

アイ 貸して。

アイも同様にポインセチアの枝を切った。

トモツグ すぐに新しい枝が出て、冬にはキレイな鉢になる。
アイ 水、ちゃんとあげて育てて欲しいな。

アイ、鉢を眺めた。

トモツグ 行こ。

アイ、寮棟に向かって頭を下げた。

アイ みんな、ゴメン。

二人、学校の方へ去る。

暗転。

#6

夏休みが終わり、秋がはじまる頃。早朝。
ヤヨイがレポートを見て、書き込みをしていた。
ヒデオ、ヤヨイの様子を気にしている。

ヒデオ ごめんな、こんな朝早くから。

ヤヨイ ううん。

ヒデオ あつという間に終わってもうたな、夏休み。
ヤヨイ せやね。

ヒデオ 俺、夏が終わるのって苦手やわ。夏になる前は、きつと楽しいことがあるって思えるのに、過ぎてしまうと、また今年も何もなかったなあって思えて。

ヤヨイ (答えない)

ヒデオ おまけに課題とか研究とか、せなあかん事だけは沢山あつて。

ヤヨイ ちよつと。

ヒデオ 何？

ヤヨイ 読んでるから。

ヒデオ ゴメン。

少し、間。

ヤヨイ、一通り読んだらしく、紙を揃えた。

ヒデオ どう？

ヤヨイ んー、イマイチ。

ヒデオ マジで？

ヤヨイ たぶんこのまま出しても再提出になるんとちゃうかな。

ヒデオ えー。

ヤヨイ 私が先生やったらそうしてる。

ヒデオ どこがマズイの？

ヤヨイ 一言で言うとは情報不足かな。

ヒデオ 情報不足。

ヤヨイ うん。例えばここ、栄養・代謝パターンのところで「入院前から食欲がなかったので、食べたり食べなかつたりしていた」ってあるやんか。

ヒデオ ああ。

ヤヨイ 糖尿病患者の場合は特にやけど、具体的な食事の摂取量とか総カロリー量、体重の変化、BMI、TPぐらいは書き込んでいた方がいいと思うねん。

ヒデオ そうか。

ヤヨイ それと、できれば塩分量と、三大栄養素の割合も。

ヒデオ ああ。

ヤヨイ こつちもそう、排泄で「坐薬使用」ってあるけど、どんな薬を使ってるのか、効果はいつ現れるのか、便の量と状態は、とか、そういうことも書き込んでおいたほうがいいと思う。

ヒデオ なるほど。

ヤヨイ それと、「不眠が続いている」って書くんやったら、睡眠薬は使っているか、睡眠時間はどれぐらいか、眠りの深さ、不眠の原因、寝ようとした時刻と目が覚めた時刻はあったほうがいいと思う。・・それから運動パターンの「車椅子移動」と「何かにつかまらなさと歩けない」なんかは何故そうなったのか理由を書いてないと正確なアセスメントができへんと思うねん。

ヒデオ えつと、・・はい。

ヤヨイ それと、

ヒデオ わー！

ヤヨイ どうしたん？

ヒデオ 頼む、いっぺんに言わんといて。

ヤヨイ はいはい。

ヒデオ、自分でレポートを確認した。

ヤヨイ それと、

ヒデオ 何？

ヤヨイ リハビリの運動については具体的に良くかけてると思うよ。

ヒデオ え？

ヤヨイ こんだけのメニューをこなしたってことは、患者さんも受け入れて積極的にやってくれたんやね。

ヒデオ そうやねん。患者さん、もう七十近いおばあちゃんやねんけどな、俺、息子さんの若いときに似てるって。

ヤヨイ へー。

ヒデオ 「ヒデオちゃん」って。

ヤヨイ え？

ヒデオ その患者さん俺のことヒデオちゃんって呼ぶねん。

「ヒデオちゃんの言うことは聞かんとな」って。

ヤヨイ カワイイなあ。

ヒデオ やろ？

ヤヨイ モテモテやん。

ヒデオ 上は六十歳以上、下は八歳以下には何でかモテるねん。

ヤヨイ わかるわ、それ。

ヒデオ わからんといてくれ。

ヤヨイ ヒデオくん、犬とか猫とか、よう寄って来るやん。

ヒデオ そうそう、肝心なもんは全然寄って来へん。

トモヨ、学校側から現れる。

トモヨ、ヤヨイとヒデオを見た。

トモヨ おはよう。

ヤヨイ おはよう。

ヒデオ 今帰ってきたん？

トモヨ シーツ。

トモヨ、ヤヨイのそばに寄る。

トモヨ どうやった、先週？

ヤヨイ あ、うん、やっぱりちょっと難しかったみたい。

トモヨ そっかあ。

ヤヨイ ハードル高いね。わかってたけど。

トモヨ うーん。正直ナーズってだけじゃねー。でも、歯医者

とかやと、うまくいった子は何人かいるよ。

ヤヨイ ごめん、歯医者じゃアカンねん。

トモヨ そうなん？あ、そっか、言うてたね。

ヤヨイ うん。

トモヨ でも初めから絞りすぎたら余計にうまくいかへんよ。

うちみたいに間口広くしとかな。

ヤヨイ うん。

トモヨ またお兄ちゃんに頼んどくし。

ヤヨイ ごめんな。ありがとう。

トモヨ うん。じゃあ。

トモヨ、去った。

ヒデオ 何？

ヤヨイ え？

ヒデオ 歯医者じゃアカンって。

ヤヨイ ううん、ちよっとね。

ヒデオ ちよっと、何？

ヤヨイ (答えない)

ヒデオ なんとなく分かるけど。

ヤヨイ うん。

ヒデオ 合コン？

ヤヨイ って言うとなんかね。飲み会？

ヒデオ アヤカに聞いたんやけど、しよっちゆう行ってるんや

って？

ヤヨイ しよっちゆうってほどでもないよ。

ヒデオ また実習始まったのに、そんなことしてて大丈夫？

ヤヨイ 別にええやん。

ヒデオ そら、ええけど。

ヤヨイ 私、やることはちゃんとやってるよ。自分でそう思ってるだけかも知れへんけど。

ヒデオ いや、ちゃんとやってるよ。勉強も、実習も。

ヤヨイ ほんなら、ええやん。

ヒデオ なんかな、けっこう噂になってな、

ヤヨイ 何が？

ヒデオ 真面目そうにしてるけど、ちょっと軽いんちゃうか、とか。

ヤヨイ 何それ。

ヒデオ 看護師なるからって、医者に近づけると思ったら大間違いやで、とか、そのうち医者に遊ばれてひどい目に遭うで、とか。

ヤヨイ、答えない。

ヒデオ ごめん、言いすぎた。

ヤヨイ 前にも言うたやろ。うち、開業医やってるねん。

ヒデオ うん。

ヤヨイ でも子供私だけで、それやのにこんなんで頭悪いから後継がれへんし。

ヒデオ ヤヨイは頭悪くないよ。

ヤヨイ 悪いよ。

ヒデオ 悪くないよ。少なくとも、俺よりは、ずっと。

ヤヨイ とにかく、何にもせえへんよりはマシやんか。歳とっ

てからお見合いとか嫌やし。トモヨ、お兄さん2人とも医者で、先輩とか後輩とか、医学部の知り合いいっぱいおるし、せやから。

ヒデオ 医者と結婚せなアカンの？

ヤヨイ 絶対、じゃないけど。いい人がおったら。私二浪してるから、余計な回り道してもうたし。うちの病院、そら小さいけど三代も続いているのに、私のせいで潰したくないし。

ヒデオ 医者になれよ。

ヤヨイ え？

ヒデオ それやったらヤヨイが医者になったらいいやんか。諦めんなよ。

ヤヨイ 簡単に言わんといて。何もわからんくせに。

ヒデオ ・俺の方が。頑張らなあかんのは。

ヤヨイ ヒデオくん。

ヒデオ 帰るわ。

ヤヨイ うん。

ヒデオ、学校の方へ去る。

ヤヨイ ごめんな。

とつぶやいたが、すぐに少し笑った。

ヤヨイ 何様やろ、私。

ナツキ、ジョウ口を持って寮棟から現れる。

ヤヨイと目があった。

ヤヨイ おはよう。

ナツキ ・おはよう。
ヤヨイ どうしたん？
ナツキ 何が？
ヤヨイ 元気ないから。
ナツキ ちよつとな。

ナツキ、鉢植えに水を遣り始める。
ヤヨイ、寮棟の方へ戻っていった。
入れ違いにユウコ、寮棟から現れる。
手には水の入ったバケツを持っていた。

ユウコ おはよう。
ナツキ おはよう。今日は煙草ちやうの？
ユウコ 煙草もやけど。ナツキ、今日は来へんかと思って。
ナツキ 何で？
ユウコ へこんでるんちやうかなと思って。
ナツキ この子らは水あげな弱ってしまうやん。
ユウコ うん。
ナツキ これぐらいではサボらへんよ。
ユウコ 手伝うわ。

二人、水遣り始めた。

チサトがキャリーバッグを引いて寮棟から現れる。

チサト ユウちゃん。
ユウコ あ、おはよう。
チサト ちよつと家に帰ってくるわ。病院にいるから何かあったらメールちよつたさい。
ユウコ わかった。どうしたん、急に。

チサト お父さん、手術するかもしれへんって。
ユウコ え？ 手術って、この前したとこやん。
チサト 転移が見つかったって。
ユウコ えっ。

チサト ユウちゃんも時間できたらまた病院へ顔出してあげて。
ユウコ わかった。絶対行く。

チサト 何で私、今看護師じゃないんやろ。

ユウコ (チサトを見た)

チサト どうしよう、もしお父さんがこのままアカンようになってたら・・・

ユウコ まだそうと決まった訳ちやうんやろ。大丈夫やよ。

チサト でも

ユウコ 叔父さんはまだ時間の中にいる。

チサト 私、何かできるやろうか。

ユウコ できるって。(少し笑って) 私なんか何もできへんかってんから。それに比べたら全然・・・

チサト ごめん。

ユウコ 私もすぐ行くようにするわ。

チサト ありがとう。行ってくる。

チサト、出て行った。

ナツキ チサト、お父さん？

ユウコ うん。

ナツキ なあ。

ユウコ 何？

ナツキ 死ぬってどういうことなんかな。

ユウコ え？

ナツキ うちら何で生きてるんやろ。

ユウコ わからへんよ。そんな難しいこと言われても。
ナツキ うちら、まだまだこんな思いついていくんやろうか。
ユウコ うん。
ナツキ うちも田舎帰ったら年寄りばかりやのに。なんか、
耐えられるんかな、って思うわ。

二人、少し黙った。

ナツキ 昨日亡くなった担当の患者さんな、

ユウコ うん。

ナツキ 「醤油かけて食べたい」って言うててん。

ユウコ え？

ナツキ 塩分制限のある人やったけど、いつも食事の時、「こ
こにちよっとだけ醤油かけて食べたいなあ」って。せやのに
結局食べさせてあげられへんかった。塩分制限の指導が優先
されるのは解ってるし仕方ないんやけど。それって誰のため
の制限なんやろうな。

ユウコ うん。

ユウコ、ポケットからチョコを出した。

ユウコ 食べる？一粒三〇〇円。

ナツキ (首を横に振る) ユウコ。

ユウコ ん？

ナツキ 煙草っておいしい？

ユウコ どうしたん？

ナツキ ちよっと吸ってみようかなと思って。

ユウコ やめとき。おいしくないよ。

ナツキ おいしくないのに吸うの？なんで？

ユウコ 現実逃避。

ナツキ え？

ユウコ でも吸わんで済むならその方がええと思う。ニオイが
な、身体に染み込んでいくから。そのうちこれなしではやっ
ていかれへんようになる。ナツキはチョコの方がええよ。

ユウコ、チョコを渡そうとする。が、ナツキは首を横
に振った。

ナツキ お願い、一本だけ。

ユウコは煙草を出してライターと共に渡した。

ナツキ、くわえて火をつけようとするが、なかなか点
かない。

ユウコ 吸わんと火点かへんよ。

ナツキ、火を点けた。が、すぐにむせる。

ユウコ 大丈夫？

ナツキ (むせながら) うん・舌がピリピリする。苦いな・

ユウコもタバコを啜えて火を点けた。

カズヒコ、携帯電話で話しながら学校側より現れる。

カズヒコ あ、もしもし。着いたから。入り口のところで待つ
てる。え？大丈夫やって。・うん。じゃあ。

電話を切った。

そこにサナエが通りかかる。

カズヒコ あ。

サナエ おはよう。どうしたん？

カズヒコ そっちこそどうしてん、えらい早いやん。朝弱かったんとちゃうんか？

サナエ いいやろ。早よ行かんとバーゲンのオープンの間に合わへんねんもん。

カズヒコ そういうのはちゃんと起きるんや。

サナエ 悪かったね。そっちこそ、どうしたん？

カズヒコ あ、いや、その・・ナオヤと待ち合わせで。

サナエ ここで？

カズヒコ こっちの方が近かったから。

サナエ どこ行くの？

カズヒコ え？特に決めてへんけど。

サナエ あやしいなあ。なんか隠してる？

カズヒコ そんなことないよ。急いでるんやったら早よ行けば？

サナエ ・・うん。

しかし、サナエ去らない。

カズヒコ アイ、学校辞めたんやって？

サナエ そうやねん。まあ、元々そんなにやる気満々って方じやなかったんやけどな。最後の方はあんまり実習も出てへん

かったし、仕方ないかな、って。

カズヒコ トモもやねん。

サナエ え？

カズヒコ 夏休み前に。俺、教官から聞くまで全然知らんかった。

たわ。

サナエ そうなんや。

カズヒコ あいつ、俺らに何も言わんと勝手におらんようになって。

サナエ でも、アイもうちらには何も言わへんかったよ。

カズヒコ 中学の時からずっと連れやってんで。

サナエ そうなん？

カズヒコ さみしいやんか、何か。

サナエ うちも一緒に行っている？

カズヒコ え？

サナエ 今日。

カズヒコ いや、それは・・

サナエ アカンの？

カズヒコ バーゲン行くんやろ？

サナエ 別に明日でもいいし。

カズヒコ せっかく早く起きてんから行ったら？

サナエ えー。

カズヒコ ゴメン、今日はホンマに。

サナエ ・・わかった。

カズヒコ また誘うわ。みんなでご飯でも行こ。

サナエ うん。けど、カズやんってメール送ってもなかなか返

事返してくれへんやん。

カズヒコ 俺、苦手やねんメール打つの。八月は特に乗船実習とかあって全然携帯見るヒマなかったし。

サナエ 忙しいんやね。

カズヒコ そっちこそ、また実習始まってなかなか遊ぶヒマないんやろ。

サナエ まあなあ。でも何とかするって。

カズヒコ わかった。また誘うわ。

サナエ うん。(時計見て) あ、ヤバイ、バス来るわ。ほんなら、
また。ホンマに連絡してな。
カズヒコ うん。
サナエ 絶対やで。

サナエ、去った。
ナツキ、煙草を消した。

ナツキ 戻るわ。
ユウコ うん。
ナツキ ありがとうな。

ナツキ寮棟の方へ去った。
ミキ、入れ違いに現れる。

ミキ (カズヒコに) おはよう。
カズヒコ ああ、行こか。(気付く) どうしたんその腕。

ミキ え、これ? ああ実習で。

カズヒコ 実習?

ミキ 注射打ち合って。

カズヒコ え? そんなことすんの?

ミキ うん。

カズヒコ 大丈夫か? すごい真っ青やで。

ミキ 大丈夫やって。放つといたら治るよ。ただのビタミン剤
やし。

カズヒコ けどなんでこんな真っ青なるねん。

ミキ まだみんな慣れてへんから。内出血とか。

カズヒコ えー。

ミキ これぐらい他の子もなってるって。

カズヒコ、ミキの腕を取って見た。

カズヒコ 大変やな、看護師って。

カズヒコ、ミキの腕を撫でようとして、

ミキ ちよっと。

カズヒコ (離す) ああ、ゴメンゴメン。なんかちよっとビツ
クリしてもうて。

ミキ、視線を感じてユウコを見た。

ユウコ、寮棟の方へ去る。

カズヒコ どうしたん?

ミキ ううん、何でもない。

カズヒコ 行こか。

ミキ うん。

二人、去ろうとする。

すると、サナエが戻ってきた。

サナエ ごめん、バス行ってもうたわ。やっぱり送ってくれる?

サナエ、カズヒコとミキを見た。

カズヒコ ごめん、今日は町には出へんねん。

サナエ そう。ミキはどこ行くの?

ミキ えっ。

カズヒコ あのな、
サナエ ナオヤくんは？

カズヒコ ……。

サナエ 待ち合わせしてたんとちゃうの？

カズヒコ ……。

サナエ なあつて。

カズヒコ あのな、

サナエ どういうこと？ 何でミキがいるの？

カズヒコ ちゃうつて、サナエ、聞いてくれや。

サナエ 何よ。

カズヒコ ちゃんと言うつもりやってんつて。

サナエ 何を？

カズヒコ その、俺ら…

サナエ 最悪。

カズヒコ 聞けよ。

サナエ アホちゃう？二人で会うんやったら、もつと見えへん

ところでやってよ。何もこんなところで会わんでもええやん。

カズヒコ ゴメン。

サナエ 謝らんといてよ、認めんといてよ。

カズヒコ ちゃうねんつて、

サナエ ちゃうことないやろ。そういうことなんとちゃうの？

ミキも、何とか言うたらどう？

ミキ (答えない)

カズヒコ ちよつと待てよ。

サナエ 行きたかったら、行ったらええやん。二人で好きなど

こ行ったら？ 行ってよ、もう。

サナエ、寮棟へ入って行った。

カズヒコ ごめんな。

ミキ え？ ううん。

カズヒコ やっぱりマズかったな。

ミキ 私が悪かったわ、やっぱりずっと気になってたもん。

カズヒコ どうする？

ミキ ……うん。ちゃんと話す。

カズヒコ 俺も…行こか。

ミキ、動かない。

カズヒコ どうしたん？

ミキ ごめん、今日行くのやめてもいい？

カズヒコ え？

ミキ こんな状態で、行かれへん。

カズヒコ けど。

ミキ また連絡するから。

カズヒコ またつて？

ミキ 今日か明日には絶対。だから今はお願い、私、サナエと

ちゃんと話せな。

カズヒコ なあ、ミキ、

ミキ 同じグループやねん。

カズヒコ え？

ミキ 卒業までずっと、ほとんど毎日顔あわせて、一緒に頑張

っていかなあかんチームやねん。ううん、卒業しても同じ病

院で働かなあかんねん。もしかしたら同じ病棟になるかもし

れへんねん。逃げられへんねん。ただでさえ私…

ミキ、黙った。

カズヒコ わかった。

ミキ ちゃんと言うから。ちゃんと話して分かってもらえるよ
うにするから。せやから今は待って。
カズヒコ ごめん。

カズヒコ、去った。

ユウコが寮棟から現れた。

ユウコ ミキ。

ユウコの声にミキが振り向いた。

ユウコ (ミキに) なにしてんの？

ミキ 何って・・・

ユウコ サナエ泣いてたよ。

ミキ (答えない)

ユウコ 誰と付き合おうとあなたの勝手やと思うねんで。でも
あの人はアカンやろ？サナエの事は、私らみんな知ってたや
ん。何かあるたびに話聞かされて。

ミキ (答えない)

ユウコ せやのにこれはないんとちゃうの？

ミキ ・・・しょうがないやん。

ユウコ え？

ミキ 分かってたよ。わかってたけど、こうなってしまっ
もん。しょうがないやん。

ユウコ ・・・しょうがないって言うな。

ミキ え？

二人、少し黙った。

ユウコ 勢いに負けたら、全部しょうがないの？ 付き合う前
からこうなることは分かってるやん。何で止められへんの？
ミキ 止められへんよ。分かってるけど気持ちは止められへん
やん。

ユウコ 気持ちってそんなに大事なもんなん？自分の立場とか、
周りの人との関係とか、それも気持ちと同じぐらい大事な
とちゃうの？そら感情に流されて思い通りにやるのは気持ち
いいかも知れへんけど、それやったら周りの人はどうなる
の？

ミキ、去ろうとする。

ユウコ 待ってよ。

ミキ (立ち止まった)

ユウコ 待ってよ。私、許されへんねん、そういうの。感情に
流されてやってしまっから「しょうがない」とか言うの。

・・・うちのお父さん、私とお母さんがいたのに他の女の
浮気してもうた。みんな言うねん、「あかんけどしょうがない」
って。お母さん、それで私を置いて家出した。「しょうがない」
って。お母さん戻ってきたけど、結局離婚してもうた。「し
ょうがない」。「しょうがない」、「しょうがない」、「し
ょうがない」。何なん？

ミキ ユウコさんは、誰も好きになっただことないの？

ユウコ そら、あるよ。

ミキ そしたらわかるやろ？

ユウコ 私は、誰かが好きな人は絶対好きにならへん。

ミキ 私はなっしてもてん。

ユウコ 「しょうがない」？

ミキ (頷く) お母さんな、

ユウコ 何よ。

ミキ ユウコさんのお父さんのこと、本当に好きやったんやと思っねん。

ユウコ 何言うてんの？

ミキ (ユウコを見ている)

ユウコ 家出ていったやん。

ミキ だから。

ユウコ 私置いて。

ミキ だから。ユウコさんのお父さんのこと、本当に好きやったと思っねん。だからお父さんのこともユウコさんのことも、何もかもから離れてしまいたくなったんやと思っねん。

ユウコ 何よそれ。勝手すぎるわ。

ミキ だからずっと後悔してる。

ユウコ え？

ミキ お母さん、ずっと。感情に流された人はそのことをずっと後悔すると思う。たぶん、私も。

ミキ、去った。

ユウコ、煙草を出して火をつけようとする。

ユウコ ・・あれ・・

火がつかない。

スズハラ学校の方から現れる。

スズハラ (ユウコに気付いて) おはようさん。

ユウコ 火持ってる？これ、点かへんねん。

スズハラ どれ。(点ける) 点くで。

ユウコ、スズハラからライターを受け取って火を点けようとするがやはり点かない。

スズハラ 手、震えてるで。

ユウコ (あきらめた)

スズハラ アル中には早いんとちゃうか？

ユウコ なあ、聞いていい？

スズハラ 何や。

ユウコ 何で看護婦が好きなん？

スズハラ いや別に看護婦が好きって訳でも・・

ユウコ 好きやん。いっつも先生らと話しする時嬉しそうやもん。

スズハラ 助けてもらったからな。入院した時。君と一緒に。

ユウコ 一緒ちゃうよ。

スズハラ どうしてん。

ユウコ 何が？

スズハラ 何かあったんか？

ユウコ スズハラさん。

スズハラ 何や？

ユウコ わかるけど許されへん時、どうしたらいいと思う？

スズハラ え？

ユウコ すぐくわかるけど、絶対許されへん時、どうしたらいいと思う。

スズハラ 話全然見えへんな。わかるけど許されへん？

ユウコ うん。

スズハラ そうやなあ。・・多分その許されへんモンは、自分にとって大事なんとちゃうか？

ユウコ え？

スズハラ 普通はわかったらどっか許せるやる？でもわかってても許されへんってことは、その許されへんモンが、自分にとって凄い大事やからなんとちやうか？

ユウコ 私。

スズハラ 許せんもんは、無理に許さんでええと思うで。

ユウコ、顔を手で覆った。

スズハラ おい・・

スズハラ、ユウコに触れようとして手を止めた。

ポケットからチョコレートの箱を出し、ユウコの傍に置く。

スズハラ それは5万円くらいや。

ユウコ (答えない)

スズハラ 味わって食べや。

暗転。

#7

ラジオの声が聞こえる。

ラジオの声 十月二十日午後四時の気象情報をお伝えします。

大型で強い勢力を持った台風二十三号は午後一時過ぎ、高知県の土佐清水市付近に上陸し、時速二〇キロ前後のゆっくりした速度で北東方向へ進んでいます。中心気圧は九一二ヘクトパスカル、最大瞬間風速は愛媛県長浜町で二六メートルが

観測されました。また台風の東側には活発な雨雲が広がっており、近畿や四国、中国地方では既に三〇〇ミリ近い雨量となっており、今後は強い風雨の地域が中部・関東に移っていくことが予想されており、台風による被害が懸念されます。引き続き、今後の台風情報にご注意下さい。くりかえします、大型で強い勢力を持った台風二十三号は・・・

とミヤコが寮棟側から、ナオヤとヒトミが学校側から現れる。全員合羽姿。

ナオヤ 由良川が危険水位突破して氾濫したって。

アヤカ えー、前の川もあふれるんかな？

ナオヤ 町の方は浸水してるらしい。テレビで観光バスが川の真ん中で立ち往生してた。こっちもたぶんヤバイで。

ミヤコ 病院は？

ヒトミ 入院してる患者さんは今のところ大丈夫らしいけど、自宅療養してる人とか外来がどんどん運び込まれて来てるって。ベッド足りへんから軽症の人は学校へ避難させるって言うてた。

ミヤコ ほんならとりあえず学校行った方がいい？

ヒトミ うん。

アヤカ 災害訓練前やのにホンマに災害が来てもうたね。

ナオヤ ええやん、これでやっと恩返しができるわ。

ヒトミ え？

ナオヤ ちよつと嬉しい。不謹慎やけど。

ミヤコ ホンマ、不謹慎やな。

ナオヤ ゴメン。

ヒトミ 私らみんなに声かけて来るわ。

ミヤコ 行こ。

ミヤコとアヤカは学校側へ、ナオヤとヒトミは寮棟の方へ去った。

学校側からワタナベが現れる。
寮棟側からはトモヨ、ヤヨイ、ナツキが現れる。

ワタナベ ごめん、手の空いてる人は体育館へ行つて。病院で外来があふれてきて、一旦体育館でトリアージすることになったから。救護班と搬送の手伝いしてくれる？
ナツキ わかりました。

学生達は学校側へ向かった。

ワタナベ 看護師さんの言うこと聞いて動いてや！ 自分らで勝手に判断したらあかんよ！

ツヅキ、ヒデオが学校側から現れる。

ツヅキ 先生、毛布とリネンの予備、寮のやつも体育館に持って行っていいですか？

ワタナベ ええ。

ツヅキ (ヒデオに) 行くで。

ヒデオ (頷く)

ツヅキとヒデオ、寮棟の方へ去った。
キョウコ、学校側から現れる。

キョウコ 先生、今、避難勧告が出たって。
ワタナベ わかりました。すぐ戻ります。ミウラさん、
キョウコ はい。

ワタナベ ミウラさんはお家に戻って下さい。

キョウコ でも、

ワタナベ 息子さんとお家の方が心配して待ってるでしょ。

キョウコ 大丈夫です、連絡は入れているし、家族は避難所へ行ったそうですから。

ワタナベ 連絡入れてても、お母さんが戻らないと不安になるでしょ。

キョウコ 息子は父と母がちゃんと面倒見てくれますから。

ワタナベ でも、

キョウコ 今帰る方が余計に危ないですし。・・失礼します。

ワタナベ あ、ミウラさん！

キョウコ、学校側へ戻ってしまった。

ワタナベ もう・・

スズハラ、現れる。

スズハラ ワタナベ先生、病院の調理場の水が、濁って使い物になれへんって。

ワタナベ え？

スズハラ 寮の調理場見せてもらっていいですか？このままやと患者さんに夕食が出されへん。

ワタナベ わかりました。おまかせします。

スズハラ おおきに！

スズハラ建物へ入って行く。
ワタナベ、寮棟側へ去った。
風雨、強まる。

学生達が病院と寮棟、建物を往復し始める。
毛布やりネンを持って寮棟から現れ、学校へ運ぶ学生
たち。
カガとノグチが病院から現れる。

ノグチ そこを何とかお願いします。

カガ せやから何回言ったらわかるんですか、小児科はもう

ベッドがいっぱいでこれ以上運び込まれても困るんですって。
ノグチ 分かってます、でもそこを何とか。

カガ 無理なものは無理なんです。外科か救急へ当たって下さ
い。

ノグチ そんなことしてるヒマないんです。こうしてる間に患
者さん、どんどん弱ってきてるんですから。

そこへ学校の方からシオリが現れた。

シオリ ノグチ先生、

ノグチ 何？

シオリ すいません、さっきの、車ごと流された家族のお子さ
ん二人、小児病棟へ運び込んでいいかって聞かれたんですけ
ど。

カガ ちょっと、ナガサワさん。

シオリ はい。

カガ 救護班に言うてくれる？ 小児科はもう、ベッドがいっ

ぱいで、これ以上運び込まれても困るから他へまわしてくれ
って。

シオリ ……。

カガ あー、もうやっぱり私が直接言いに行きますわ。(学校へ
行きかける)

シオリ 特別室に入れてもらえませんか？

カガ え？

シオリ 個室と、特別室と。そこを相部屋にしたらベッドは入
るはずですよ。

カガ あなた自分が何を言ってるか分かってるの？

シオリ 分かってます。今は非常事態です。みんな協力しあ
わないと乗り越えられませんか。患者さんにも事情を説明すれ
ばわかってもらええると思います。

カガ あなたねえ、

ノグチ 私からもお願いします。聞いてもらえなければ、院長
に直接掛け合います。

シオリ 患者さんを助けてください。

カガ、ノグチとシオリを見た。

カガ 勝手にしてください。

シオリ 看護師さんたちには私から説明します。

カガ、去った。

ノグチ、シオリの背中をポンと叩いた。

シオリ、病院の方へ向かう。

スズハラが建物から現れる。

スズハラ あかん、こっちも水がドロドロや。

ノグチ どうかしましたか？

スズハラ 寮も病院も、水が濁って使い物になれへんです。
ノグチ リハビリ用のプールは？

スズハラ あきませんって。今日の晩メシに使う水やのに。

ノグチ、少し考えた。

ノグチ 病院に点滴用と注射用の蒸留水があるはずですが、それで何とか調理できませんか？

スズハラ いいんですか？ そんなに使って。

ノグチ 備蓄庫に予備があるはずですが、一食分くらいの水なら何とかなると思います。

スズハラ ホンマですか？

ノグチ 私も一緒に頼みにいきます。食事を出せない方が問題ですから。

スズハラ 助かりますわ。

ノグチ 行きましょ。

ノグチ、スズハラと病院の方へ去った。

風雨、強まる。

学生達は寮棟から毛布、リネンの運搬に加え、病院から学校へ器具や薬品、車椅子なども運び始める。

学校側からユウコが現れる。

同時にミキが病院側からダンボールを抱えて現れる。

ユウコ、避けられず、ミキにぶつかってしまう。

箱の中身（テープ類やガーゼの袋など、細々したものが散らばった。

ユウコ ゴメン！

相手がミキだと気付くユウコ。

ミキは黙って箱の中身をダンボールに入れ始めた。そのまま病院の方へ向かおうとするユウコ。

が、少し立ち止まって、引き返してきた。

ミキと一緒に散らばった箱の中身を拾う。ツツキが寮棟側から毛布を抱えて現れた。突然、建物の明かり、暗くなり、驚きの声があちこちから聞こえる。

病院側からチサトとキョウコが現れた。

ツツキ どうした？

キョウコ 停電です。

ツツキ わかった。非常灯に切り替えるわ。それと、懐中電灯をあるだけ出すから手伝って。

キョウコ はい。

チサト、ユウコとミキに気付く。

ツツキとキョウコは学校側に去りかけた。

キョウコ、つまづく。ツツキ、キョウコを助け起こす。

ツツキ 大丈夫か？ 足元気をつけて。

キョウコ はい。

ツツキとキョウコ、去っていった。

ミキとユウコは箱の中身を入れ終わった。

ミキ ありがとう。

と、ユウコに頭を下げ学校の方へ去った。

ミキを目で追うユウコ。

チサト 仲直りしたん？

ユウコ ……。

ナツキ学校側から出てくる。
気分が悪いのか、弱い足取り。
ヤヨイがナツキを追って来る。

ヤヨイ ナツキ、大丈夫？

ヒトミが寮棟の方から現れ、ナツキらに気付いた。

ヒトミ どうしたん？ 大丈夫？

ナツキ ごめん、今、川に流された人が運ばれてきて・・

ヤヨイ 安置所へ運んでくれって言われたんやけど、ナツキが、

ヒトミ うち、行こか？

ナツキ え？

ヒトミ 変われへんよ、生きてても死んでも。身体がそこに

あつて、待ってるんやろ。

ヤヨイ 頼むわ。

ヒトミ、ヤヨイと共に学校側に去る。

スズハラ、蒸留水の袋を抱えて現れる。

スズハラ おい、水運ぶから手貸してくれ。

チサト はい。

ナツキ、チサトを押しやってスズハラから袋を受け取った。

ナツキ どこへ持って行くんですか？

スズハラ 食堂や。停電で病院は非常電気に切り替える。

チサト でも寮も停電で・・
スズハラ 寮の調理室はボンベが使える。メシ炊けるはずや。
ナツキ わかりました。
スズハラ 頼むで。

ナツキ、建物へ去る。

スズハラとチサトは病院の方へ行った。

ユウコを残して学生達が病院と寮棟、建物を往復する姿が浮かび上がる。

ユウコの記憶にある残像なのか、その姿は少しゆっくりに見えた。

ユウコ 停電の暗闇の中でメリメリと建物が崩れる音が聞こえる。時々、電線が切れたのか火花が飛び散るのが見えた。道という道は川のような濁流が流れて、時々大きな丸太が建物にひっかかっている。まるで世界の終わりが来たような、そんな光景のなかで、みんなドロドロになりながら、病院と体育館を何回も往復した。運ばれてくる患者さんのケガの手当てをし、間の中で不安に眠れない患者さんには、手を握って励ましの声をかけつづけた。

あちこちで、患者に呼びかける声が聞こえる。

学生たち（口々に）

聞こえますかー。

わかりますかー。

痛いところありませんかー、
気持ち悪くありませんかー、
熱はかりますねー、

幸のために身を捧げん。

ちよつと染みますよー、
痛かったら言つて下さいねー、
ちよつとだけチクツとしますねー。
我慢しないで何でも言つて下さいねー、
何でも聞いてくださいいねー、
ありがとうございますー、
大丈夫ですよー、
何でも言つて下さいいねー、
ありがとうございますー、
大丈夫ですよー、……

ユウコ その声を聞いてると、何でかわからんけど、私の頭の中に、あの言葉が浮かんで来た。ドクターや看護師さんたちに比べたら、全然、ホントに何もできない私たち。でも確かにその時私の中で、あの言葉がぐるぐるど駆け巡っていた。

学生達が交差する中、ユウコにだけ聴こえた声なのか、その声は低く、けれどハッキリと耳に入ってくる。

声 われは ここに集いたる人々の前に 厳かに神に誓わん。
わが生涯を清く過ごし わが任務を 忠実に尽くさんことを。
われは すべて毒あるもの 害あるものを絶ち
悪しき薬を用いることなく また
知りつつもこれをすすめざるなり。
われは わが力の限り わが任務の標準を
高くせんことを努むべし。
わが任務にあたりて 取り扱える人々の 私事のすべて
わが知り得たる 一家の内事のすべて
われは人に洩らさざるべし。
われは 心から医師を助け わが手に託されたる人々の

豪雨、強まる。

学生達の姿がシルエットで浮かび上がる。

暗転。

8

明け方に近い深夜。

台風はおさまったらしく、辺りは静かになっていた。

ミヤコが煙草を吸っていた。

テーブルの上に非常灯を置いているため、付近はやや明るい。

ワタナベが懐中電灯を手にとってきた。

ワタナベ おつかれさま。

ミヤコ あ、先生。

ワタナベ 雨、やんだね。

ミヤコ ええ。やれやれですね。

ワタナベ ホンマに。

ミヤコ まだ起きてはったんですか？

ワタナベ うん、夜勤の人手が足りへんからって。あんたこそ、

こんな遅くまで。

ミヤコ なんか寝られなくて。

ワタナベ、煙草に火をつけた。

ミヤコ 大変でしたね。

ワタナベ うん。．．でもちよっと嬉しかったなあ。みんな何も言わんでも自分からちゃんと動いてくれて。私、人に教えるってどうやろうと思ってたけど、悪くないもんやな。

ツヅキとキョウコが学校側から現れる。

ツヅキのマグライトを頼りにしている為かツヅキ、キョウコの手を引いていた。

ワタナベが二人に気付いて懐中電灯で照らす。

ツヅキ あ、ワタナベ先生。

ワタナベ はい。

ツヅキ 今日はこれで失礼します。

ワタナベ え？ 帰られるんですか？

ツヅキ ええ、家の方も気になるんでちよっと見てきます。

ワタナベ そうですか。お疲れ様でした。

ツヅキ ワタナベ先生は帰られないんですか？

ワタナベ 私は朝の申し送り済むまではちよっと。

ツヅキ わかりました。(キョウコに) ほな、行こか。

キョウコ はい。

ワタナベ え？

ツヅキ ああ、ミウラさん、同じ方向なんで送って行きますわ。

キョウコ すいません、先生。お先に失礼します。

ワタナベ え？あ、そう。あー、そしたら気をつけて。

ツヅキ 失礼します。

ミヤコ お疲れ様ー。

ツヅキ あ、こっちこっち。

キョウコ すいません、あつ、

と、つまずいたキョウコをツヅキが支えた。

ツヅキ 大丈夫か？ 足元気つけや。

二人去った。

ワタナベ どう思う？

ミヤコ えっと。

ワタナベ ツヅキさんって、今まで私がどんなに残業しても絶対送ってくれへんかってんで。

ミヤコ 考えすぎですって。

ワタナベ 私もつまづかなアカンのかな。

アヤカ、チサト、トモヨ、ユウコ、手に手にお菓子や

おにぎり、水、ジュースなど持って懐中電灯で照らしながら、寮棟から現れる。

トモヨ 誰かおるよ。

チサト シーッ！

アヤカ 誰？

4人、そっと近づいていった。

チサト ワタナベ先生！

アヤカ ヤバイ！

4人逃げようとするが押し合いへし合いになる。

ワタナベ あんたら、何やってんの？

アヤカ すいません、私らどうしてもお腹空いてもうて。

チサト みんな寝てるし、外で食べよかって。ねー。
ワタナベ ほんまにもう、いいからさっさとこっちおいで。
チサト 先生もどうですか？

4人、お菓子を広げ、テーブルについた。
が、遠慮してるのか、手をつけず、じっとしてる。

ワタナベ いいよ、食べたなら？
学生達 いただきまーす。

みんな、お菓子をつまみ、ジュースを飲み始める。
ナオヤ、建物側から現れた。

ナオヤ なんか、賑やかやな。
トモヨ あ、ナオヤくん。

ミヤコ どうしたん？ナオヤくんもお腹空いて寝られへんの？
ナオヤ いや、そういう訳じゃないんやけど。
アヤカ 何なに？
ナオヤ ヒデオのイビキ、うるさくて。

みんな、小さく笑った。

アヤカ そうやろ、ホンマにイビキうるさいねん、アイツ。
ミヤコ え？

みんな、アヤカを見た。

ナオヤ なんて知ってんの？
アヤカ え？そら、まあ、よう学校とかでも居眠りしてるから。

トモヨ ふーん。

アヤカ、周りに座ってる人に小突かれる。

アヤカ いや、違うねんって、ホンマに。

ミキ、病院側から現れた。

ミキ ワタナベ先生、ラウンド二回目お願いしますって。
ワタナベ はーい。ほんなら、ちよつと行ってくるかな。

(学生達に)明日もいろいろやることあるんやから、ほどほどにして寝や。
学生達 はーい。

ワタナベ、病院の方へ去った。

ミヤコ ミキ、お腹空いてない？

ミキ え？

アヤカ よかったら、こっちでちよつとつまんで行き。

ミキ ありがとう。

ナオヤ あ。

カズヒコ、救護服姿で学校側から現れた。

カズヒコ おう。

ナオヤ どないしてん。

カズヒコ それはこっちが言いたいわ。ずっと救助の忙しい合間に電話してんのに、誰も出へんから、メッチャ心配したで。
ナオヤ ゴメン。みんな病院の手伝いで大変やったから。

カズヒコ こっちも大変やったっちゅうねん。・・みんな大丈夫
なんか。

ナオヤ ああ。

カズヒコ まあ、とりあえず安心したわ。

ナオヤ 町の方はどんな感じや？

カズヒコ 完全に水に浸かってもうてる。助けに行こうとして
も土砂崩れで道通られへんし。冠水でまだ水の中に孤立して
る民家も残ってるわ。

ナオヤ 行かんでええんか？

カズヒコ まあ、俺らはまだ学生やから。でも黙って抜けてき
たし、すぐに戻らなあかんけど。朝イチでまた手伝いに向か
うって。

ナオヤ そうか。

ミキ (アヤカに) これ、もらっていい？

アヤカ あ、うん。

ミキ、机の上にあった、おにぎりとペットボトルを
取って差し出した。

ミキ これ持って行く？

カズヒコ おー、ありがとう、めっちゃ嬉しいわ。ミキが作っ
たん？

ミキ え？ ううん、違うけど・・

カズヒコ ま、ええか。・・ほな、な。

ナオヤ 気つけろよ。

カズヒコ おう。

ミキ ありがとう。

カズヒコ (頷く)

カズヒコ、去った。

ナオヤ ミキ、足どうしたん？

ミキ え？

ナオヤ 血出てるよ。

ミキ (足を見て) あ・・

ミヤコ こっち座ったら？ ごめん、ちよつといい？

ユウコ え？ ああ。

みんな席を空けようと座り位置をずらす。

ミヤコの横に座っていたユウコ、ミキを自分の席に
連れてきて座らせた。

ユウコ 見せて。

ユウコ、咄嗟にミキの前に座る。

ミキとユウコ、目が合う。が、ユウコすぐに伏せた。

ユウコ 切ったみたいやな。枝でも引っ掛けたんちゃう？

チサト 水、蒸留水、

アヤカ 取ってこよか？

トモヨ (ペットボトルの水を見せて) これでいいんちゃう？

ユウコ ガーゼは？

ミヤコ あるある。(ポケットから出す)

アヤカ (ポケットから出す) オキシ持ってたわ。

ユウコ テープは？

みんな、ポケットからテープを出した。

誰からともなく笑いが漏れる。

ユウコ そんなにいらんって。
ミキ ありがとう。

ユウコ、ミキの傷を洗浄、消毒し、ガーゼを当ててテープで止める。
処置の間に、ノグチが学校側から現れた。

ノグチ あんたら、何してるの？

みんな、一瞬固まった。

ノグチ 先生も混ぜてもらっていい？

緊張、とける。

チサト 先生、こっち。

トモヨ どうぞ、ドーズ。

ノグチ もうー、今日は気がついたら朝食食べたつきり、全然何も食べてなかったわ。

アヤカ えー。食べてください。まだ沢山ありますから。

ノグチ ありがとう。これもらっていい？

ミヤコ あ、お茶もありますよ。

ノグチ、おにぎりを取って、一口食べて手を止めた。

アヤカ すいません、あんまり味ないでしょ。水使えなかったんで注射用の蒸留水使って炊いてるんです。

ノグチ ええんよ。ちょっと思い出しただけやから。

アヤカ そうなんですか。

ノグチ 地震のときもな、こうやって味の無いおにぎり食べたなあと思って。

アヤカ え？

みんな、ノグチを見た。

ナオヤ 先生ってあの地震の時、神戸にいたんですか。

ノグチ うん。先生な、あの時須磨の病院におってん。今日も大変やったけど、あの時大変やったなと思って。

ミヤコ その時も看護師やったんですか？

ノグチ そうや。けど、あんまり大変やったから、看護師辞めてもうたんやけどな。

ミヤコ え？

トモヨ 先生、看護師辞めてたんですか。

ノグチ うん。ごめんな、みんな今日頑張ってくれたのに、こんな話して。

トモヨ いえ。

ノグチ 私が勤めてた病院内科やってん。内科って手術できへんやん。でもどんどん人が運び込まれてくるねん。初めはごく軽症の人ばかりやったんやけどな。歩いて来て、消毒して帰って。でもそのうちだんだん来る人の傷がひどくなっていったな、もうどうしようもない人が来始めてん。うちは内科やから手術できへんって言うてもケガした人には関係あらへん。病院は病院やんか。普通の時やったらすぐに他の病院に搬送できるのに受け入れ先がなかなか見つからなくて。
・・・なんにもできへんかってん。ホンマに。なんにもできへんかったんよ。

ノグチ、少し黙った。

ナオヤ 僕もあの時神戸にいました。

ノグチ え？

ナオヤ 六甲道で家族と一緒に。

ノグチ そう。

ナオヤ 家つぶれました。僕が一人で寝てる場所にダンスが倒れてきて、下敷きになりました。

みんな、ナオヤを見た。

ナオヤ 僕は泣きながら両親の名前を叫んでました。でも、段々疲れてきて、叫ぶのやめました。寒いし、身体動かへんし、このまま死ぬかなって思ってた。でも一時間ぐらい経って父

親が近所の人呼んできて、みんなでちよつとずつ瓦礫どけてくれて助け出されました。僕は朦朧としてて、父親に抱きかかえられたまま病院へ向かおうってことになりました。その時、知らん女の人がかけてきました。「私は看護婦です」って。その人、僕にいっぱい話かけてくれて、両親と一緒に歩いて三キロも先の病院までついて来てくれました。僕、「うん」、「うん」って返事しながら、結局病院に入ったところで、気を失いました。・後で母親に聞いたら、その人、僕が病院に着いたのを見届けて、黙って行ってしまったそうです。

ミヤコ なんか、正義の味方みたいやな。

ナオヤ せやから今日は、僕でもちよつとは役に立てたんちゃうかって思えて嬉しかった。不謹慎やけど。

ユウコ うん。

ナオヤ 後で知ったんやけどな、看護師のこと、白衣の天使って言うやろ？ でもあれ、ナイチンゲールは美しい女の人、っていつつもりで言うたんじゃなかってんて。

チサト どういうこと？

ナオヤ その、天使のイメージっていうか、定義っていうか。違うかってん。ナイチンゲールはな、天使を『美しい花を撒き散らす者』じゃなくて『苦悩する者のために戦う者』や、って言うててん。

ミキ 苦悩する者のために戦う者。

ナオヤ それって何か、かっこええやん、って思ってたな。

少し、間。

ユウコ 先生。

ノグチ 何？

ユウコ 何で、先生はもう一回看護師になろうと思っただんですか。

ノグチ 何やろうな、子供が生まれたからかな。

ユウコ え？

ノグチ うちの子、身体弱くてな、しょっちゅう入院しててん。その度に昔使ってた教科書見て、思い出して。

ユウコ それで自分の子供の為に？

ノグチ ううん、ちよつと違うねん。

ユウコ 違う。

ノグチ 病院行ったらな、だんだん、他に入院してる子のことも気になってきてん。看護師さん達も、見てたらやっぱりどこも同じやねんな、人数ギリギリで、いつも疲れてて。それ見てたら、私も何かできるんちゃうかなと思えるようになって。自分で勝手に自信失くして辞めたけど、できるかできへんかを決めるのは私じゃなかったんやなと思ってる。

ユウコ (ノグチを見ている)

ノグチ おかげで自分の子供には、あんまり手かけられへんよ

うになって、申し訳ないことしたなと思うけどな。

ユウコ 自分の子供より他の人の子供のことが気になったって
ことですか？

チサト ユウコ。

ノグチ そんなことないよ。そら、自分の子が一番大事や。

でも一番大事やから、それがわかるから、他の子も大事に
思えてん。それだけやよ。

ユウコ、答えなかった。

携帯電話の音。

トモヨ 誰？こんな時間に。

チサト あ、ごめん、私や。

チサト、電話に出る。

チサト もしもし？ ・ ・ え？ お父さんが？

ユウコの姿が浮かび上がる。

ユウコ 真夜中にかかってくる電話は嫌いだ。特に夜明けにか
かってくる電話は良い知らせだったことがない。お父さんの
時もそうだった。チサトにかかってくる電話も、叔父さんの
急変を知らせるものだった。チサトは朝を待たずに駆けつけ
て、叔母さんと交代で懸命に看病した。おかげで、叔父さん
は一時は持ちこたえた。やった。母と娘、叔父さんにとって
は最高ナースたち。 ・ ・ けれど、ガンは体のあちこちに転移し
ていたらしく、叔父さんは冬を待たずに時間のない国へ行っ
てしまった。

明かりが変わるとチサトの姿が浮かびあがる。

チサト まずは一礼。心電図モニターは部屋から運び出されて
いたので、高カロリー輸液や呼吸器を外しました。鼻腔、口
腔、外耳道に脱脂綿を詰めました。閉眼紙を水で濡らし、コ
ンタクトを入れる容量で角膜に当てて瞼を閉じました。腹部
を腸に沿って圧迫し、強刺激を貼りました。全身を暖かいタ
オルで拭いて、傷の上に絆創膏を貼りました。体に残った大
きな傷は、何重にも包帯を巻きました。 ・ ・ 病氣と懸命に闘い
抜いた傷痕を見て、改めて、痛かっただろうなあ、苦しかっ
ただろうなあと思ひ、涙があふれてきました。着物を着せる
ために抱きかかえた身体はまだ暖かくて、もう一度動き出し
てくれるのなら、どんなことでもするのにと思いました。髭
をそり、髪を梳いて、胸の前で手を組みました。足が開かな
いように膝を縛り、口が開かないように顎を固定し、最後に
顔面がうつ血しないように高めの枕を入れました。 ・ ・ 穏やか
に、ほんの少し笑っているような顔になるように、と願いな
がらもう一度そつと顔を拭きました。

ユウコ、チサトの傍に現れた。

チサト、ユウコに気付く。

チサト エンゼルケア、デビューしてきたよ。

ユウコ うん。

チサト お母さん看護師で、私も看護学生やって言うたら、
向こうの看護師さんたちが特別にさせてくれたら。

ユウコ どうやった？

チサト 悲しかったけど、嬉しかった。

ユウコ そう。

チサト 初めてにしては結構ちゃんとできたと思う。

ユウコ 叔父さんも喜んでるよ、きっと。

チサト お父さんな、

ユウコ うん。

チサト 「誇りを持って」って。

ユウコ え？

チサト 急変したあと、少しだけ意識が戻った時にな、お父さん、何か言おうとしてん。私、何かして欲しいのかなと思っ
てお父さんに「どないしたん？」って聞いたらな、私の手を
ぐっと握って何か言うねん。けど、何言うてるか全然わか
れへんかったからな、何回も何回も聞き返してん。そしたらな、
「誇りを持って」って。

ユウコ 誇りを持って。

チサト 「誇りを持って」って。「お母さんもおまえも、すごい
仕事してる。せやから誇りを持って頑張れ」って。お父さ
ん、痛くて苦しいはずなのに、かすれた声で言うてくれてん。

二人、少し黙った。

チサト あの声、私、一生忘れへんと思う。

ユウコ うん。

チサト 生きてるって、それだけで凄いことやのに、なんで忘
れてしまうんかな。

ユウコ うん。

チサト 何でみんな特別に幸せそうじゃないんやろな。朝、目
が覚めて起きられるって、当たり前のことじゃないのに。普
通に呼吸ができて、ご飯食べられて、話ができて。全然当
り前のことじゃないのに、凄い幸せなことやのに。

ユウコ 忘れへんよ。

チサト ・・うん。

ユウコ 忘れへんよ。少なくとも私らは。

チサト うん。

ユウコ 私らには時間がある。時間が残されてる。伝えられる
よ、きつと。

クラクションの長い音が聞こえる。

溶暗。

#9

12月。ポインセチアが赤く色づいていた。

サナエとヒトミがその鉢をラッピングしている。

別のテーブルではキョウコとヤヨイがクリスマスカー
ドを作っていた。

ヒデオがサンタの格好でアヤカはトナカイのツノを付
けて学校側から現れる。

アヤカ 腹水でアルブミン補充？

ヒデオ うん、ネフローゼ症候群って言うてた。

アヤカ ってことは浮腫ふしゅもみられるのよね？

ヒデオ せやから利尿剤投与と塩分制限、タンパク質摂取制限
ってところやと思うけど。

アヤカ そうやね。

ヒデオとアヤカ、視線を感じて気がついた。

アヤカ (キョウコとヤヨイに) あ、お菓子届いたから、小児
病棟に配るの手伝ってって。

キョウコ はーい。

ヤヨイ (ヒデオに) 似合うやん。

アヤカ 保育園から借りてきたんやって。

キョウコ ヘー。

ヒデオ メリークリスマス。

アヤカ 笑って笑って、

ヒデオ ホーッホッホッホッ・

アヤカ イケてる？

キョウコ 行こか。

ヒデオ 受け流すなよ。

キョウコ サンタの格好したら大丈夫やって。

ヒデオ 言うとかけど、かなり恥ずかしいねんで。

ヤヨイ 大丈夫、大丈夫。

テーブルから離れようとしてヤヨイ、立ち止まった。

ヤヨイ あ、どうしよ。クリスマスカード。

アヤカ そこ置いといたら？他の子も書くやろうし。

キョウコ そうそう。戻ってからやったらええやん。

ヤヨイ うん。(移動しながらヒデオに) さっきのネフローゼ症候群の話やけどさ。

ヒデオ 何？

ヤヨイ ステロイドを投与する場合もあるよ。

ヒデオ そうなん？

ヤヨイ 私、前に同じような患者さん調べたことあったから。

よかったら資料コピーしよか？

ヒデオ ホンマに？ 貸してもらっていい？

ヤヨイ いいよ、また探してみるわ。

アヤカ (ヒデオの背中にパンチ)

ヒデオ いてっ。何すんねん！

アヤカ 走り去る。

ヒデオ、ヤヨイ、キョウコ、学校側に去った。

サナエ あーあ。世間はクリスマス一色やなあ。(ヒトミに) 何か楽しいことない？

ヒトミ 楽しいこと？

サナエ なんかさ、クリスマスがこう、寂しくならないような。

ヒトミ 人体の不思議展、一緒に行く？

サナエ いい、遠慮しとく。

少し間。

ヒトミ ポインセチアの花言葉は「聖なる祈り」やねんで。

サナエ ヘー。

サナエ 少し間。

ヒトミ 他には？

サナエ 「私の心は燃えている」とか。

ヒトミ うん。

サナエ 他には？

ヒトミ、ポケットから何かを出して、サナエの傍にそっと置く。

サナエ 何、これ？

ヒトミ 脊椎キーホルダー。

サナエ 何で？

ヒトミ なごむかなと思って。

サナエ なごまへんよ。

ヒトミ 私はなごむんやけどなあ。・・・じゃあ、これは？（ポケットからペンを出す）動脈ペン。こっちが健康な血管で、こっちがコレステロールで塞がった血管になってるねん。

サナエ・・・。

ヒトミ 患者さんにはウケるんやけどなあ。

ナツキ、寮棟から現れる。

ナツキ 歌の練習5時からやって。

サナエ はーい。

ヒトミ 今年は何歌うの？

サナエ 去年と同じやろ。『きよしこの夜』とか、『赤鼻のトナカイ』とか。

ナツキ 今年は英語の歌も歌うって。

サナエ えー、覚えられへん。クリスマスイブとかでええやん。

ヒトミ 山下達郎の？

サナエ そうそう。

ヒトミ 患者さん、寂しくなれへんかな。

サナエ 何で？

ヒトミ ♪きつと君はこないー 一人きりのクリスマスイブ・・・

サナエ あかんな。

ナツキ （ポインセチアを見て）これ、もう持って行っていい？

ヒトミ うん。

ナツキ 台風にもメゲんとキレイに育ったな。

サナエ ナツキがちゃんと一年間、大事に育ててきたから。

ナツキ でもやつぱり地味かな。

ヒトミ そんなことないよ。私は好きやよ、ポインセチア。

ナツキ ありがとう。

ヒトミ 血の色やもんな。

ナツキ もういいって。

スズハラ、病院側から現れる。

スズハラ お、もうクリスマスか。

ナツキ 今日からツリー飾りますよ。

スズハラ 今年もあれやるんか？

サナエ あれって。

スズハラ ほら、いつもロウソク点けて歌うたいながら病棟回ってるやろ。

ナツキ キャンドルサービス？

スズハラ それそれ。俺、何か好きやねんな、キャンドルサービス。

ナツキ 私も。去年、患者さんたちすっごい喜んでくれたし。

サナエ うん。私、歌いながらめっちゃ感動してもうて、ほとんど声出してなかったもん。

ナツキ そらあかんやろ。

スズハラ 入院して気が弱くなってる時はな、歌とか、カード

とか、ちよっとしたことが嬉しいもんなんやで。

ナツキ そうですね。

ユウコ、病院側から現れる。

ユウコ ツリー飾りつけできたよ。

ナツキ わかった。（サナエとヒトミに）持って行こか。

サナエ はーい。

サナエ、ナツキ、ヒトミ、ポインセチアを持って病院の方へ去った。

スズハラ、煙草を出してくわえた。
ユウコ、スズハラの煙草を取りあげる。

スズハラ 何するねん。

ユウコ 禁煙し。

スズハラ は？

ユウコ 禁煙し。煙草は体に悪い。

スズハラ 何言うてるねん。君も吸うやんか。

ユウコ 私、辞めたもん。

スズハラ そうか。(もう一本出す)

ユウコ (また、とりあげて) 目の前で吸われたら腹立つ。

スズハラ そんなムチャな。

ユウコ 代わりにこれあげるから。

ユウコ、長靴のお菓子のスズハラに渡した。

スズハラ はいはい。・・手出してみ。

ユウコ とう？

スズハラ、ユウコの手にはチョコを乗せ、ユウコから

ダッシュで離れて煙草に火をつけた。

ユウコ、追いかけるが間に合わず逃げられる。

ユウコ あっ！

スズハラ 残念でした。

ユウコ もう。

ミキ、手に袋を持って病院の方から現れる。

ミキ ユウコさん。ここにおったんや。

ミキ、ユウコの傍に来た。

ユウコ 何？

ミキ お母さんな、先週退院したよ。

ユウコ そう、良かったな。

ミキ リハビリしたけど、やっぱり麻痺が完全に治らんかったな、さすがに看護師は続けられへんからって、看護助手の仕事が始めるって。

ユウコ すごいな。

ミキ うん。何かしてないとあかん人やから。

ユウコ でも、すごいよ。

ミキ ・・うん。それとこれ、お母さんがユウコさんに渡してくれって。

ミキ、ユウコに袋を渡した。

ユウコ、中を見る。

ユウコ 聴診器。

ミキ お母さんが使ってたやつやねん。よかったらユウコさんに使って欲しいって。

ユウコ こんなももらわれへんよ。

ミキ もらってあげて。

ユウコ でもミキかて。

ミキ 私ももらったから。同じやつ。

ユウコ (ミキを見た)

ミキ もらってあげて。お願い。

ユウコ ・・わかった。

ミキ ありがとう。それだけやから。

ミキ、去ろうとする。

ユウコ あ、待って。

ミキ 何？

ユウコ 手紙、書くわ。お礼の。

ミキ うん。

ユウコ 渡してくれる？

ミキ (頷く) ありがとう。

ミキ、去った。

スズハラ それ、エエやつか？

ユウコ うん。めっちゃイイやつ。・・ありがとうって。

スズハラ え？

ユウコ こっちのセリフやん。

ユウコ、聴診器を付けた。

ユウコ スズハラさん。ちょっと試させてもらっていい？

スズハラ ここで？

ユウコ ちよつとだけ。お願い！

スズハラ しゃあないなあ。

ユウコ、聴診器に息を吹きかけて握った。

スズハラ 何してるねん。

ユウコ あったためてるの。

スズハラ ああ。

ユウコ、スズハラの胸に聴診器を当てた。

スズハラ どうや？

ユウコ しいつ。・・心臓の音、聞こえるよ。・・肺の音も。

少し、間。

ユウコ、聴診器をおろして耳から外した。

スズハラ どうですか？センセイ。

ユウコ (笑って) 雑音も不整脈もないですよ。異常なしです。

スズハラ そらおおきに。

ユウコ 長生きしてな。

スズハラ え？

ユウコ スズハラさんは、長生きしてな。

スズハラ せやな、せいぜい気いつけるわ。

ユウコ もし八十歳まで生きてくれたら、私、スズハラさんに

チューしてあげるよ。

スズハラ、少し笑った。

スズハラ いらんわ。

ユウコも少し笑った。

スズハラ それ、せつかくもらったんやから大事にしいや。

ユウコ うん。

スズハラ、病院の方へ去って行った。
ユウコ、一人明かりの中に浮かぶ。
テーブルの上のクリスマスカードを一枚取り、座って書き始めた。

ユウコ メリー、クリスマス。聴診器ありがとう。私はイトウユウコといいます。看護学校に入学してミキと出会い、あなたのことを知りました。私は今、看護師を目指して勉強しています。・・・

寮棟からコーラスの練習だろうか、『スモール・ワン』の歌声が聴こえる。

歌声 ♪スモールワン スモールワン 誰かが

君をきくと 待っている

どんなに小さな者でも 神様は見ていらっしやる

限られた時を 助け合って生きよう

すべての命は役目を持っているよ

スモールワン スモールワン 誰かが

君をきくと 待っている

どんなに小さな者でも 神様は見ていらっしやる

きくと

ユウコ、一旦手を止め、耳を傾けるが、再び手紙を書き始める。

ユウコが想像するキャンドルサービスのイメージなのか、白衣にキャンドルを手にした看護学生たちが浮かびあがる。

ユウコは手紙を書き続けた。

コーラスは次第に大きくなり、歌声はこの小さな中庭に響きわたってゆく。

溶暗。

終幕

参考文献

『看護覚え書 改訳第六版』（フローレンス・ナイチンゲール著、薄井担子 訳）

『ナースのナース』（徳永進 著）

『看護過程展開ガイド』（任和子 編者）

『看護観察のキーポイントシリーズ内科』（宮崎和子 著）

『看護観察のキーポイントシリーズ小児科』（桑野タイ子 著）

『看護観察のキーポイントシリーズ外科』（富田幾枝 著）

『看護観察のキーポイントシリーズ整形外科』（加藤光宝 著）

『病院が大震災から学んだこと』（沢田勝寛 著）

『ロバと少年』（監督：ドン・ブルース）